

令和 4 年度厚生労働省委託事業

不妊症・不育症におけるピアサポーター等の養成に係る広報啓発業務

令和 4 年度

不妊症・不育症ピアサポーター等の養成研修業務報告書

令和 5 年 3 月

公益社団法人日本助産師会

目次

1. 本事業の概要	1
1-1. 本事業の目的	2
1-2. 養成研修	2
1-2-1. ピアサポーター養成プログラム	2
1-2-2. 医療従事者プログラム	3
1-3. 研修会開催のタイムスケジュール	5
1-4. 事業実施体制	5
1-5. 本事業の広報活動	5
1-5-1. ホームページの作成	7
1-5-2. 広報啓発	8
1-6. 事業全体アンケート結果	10
2. 開催実績	20
2-1. ピアサポーター養成プログラム	20
2-1-1. 受講者の概要	20
2-1-2. 受講状況	25
2-1-3. グループワーク：積極的傾聴スキルの実践	26
2-1-4. 受講者アンケート結果<オンデマンド配信/ライブ配信>	27
2-2. 医療従事者プログラム	35
2-2-1. 受講者の概要	35
2-2-2. 受講状況	39
2-2-3. グループワーク：支援プログラム案の作成	40
2-2-4. 受講者アンケート結果<オンデマンド配信/ライブ配信>	45
3. 事業実施における課題	53
4. 今後の研修のあり方への提案	54
5. 資料	55
5-1. ホームページ・受講者マイページ画面	55
5-2. シラバス・講義資料	59
5-2-1.1) シラバス：ピアサポーター養成プログラム	59
5-2-1.2) シラバス：医療従事者プログラム	69
5-2-2.1) 講義資料：ピアサポーター養成プログラム	78
5-2-2.2) 講義資料：医療従事者プログラム	132
5-3. 支援プログラム案	178
5-4. ピアサポ掲示板利用案内	186

1 本事業の概要

本事業では、様々な悩みや不安を抱え、複雑な精神心理状態にある不妊症・不育症患者が気軽に相談できるサポーターを育成するため、「不妊症・不育症に悩んでいる人の力になりたい・悩みを理解したいと思う人」を対象としたピアサポーター養成プログラム、および、医師、保健師、助産師、看護師、心理職、その他、専門職として関わりたい人を対象とした医療従事者プログラムを作成し、オンラインによる研修会を開催した。

1-1. 本事業の目的

不妊症・不育症患者に対する精神的サポートとして、医師、助産師、看護師、心理職など専門職による支援に加え、過去に同様の治療を経験した者による傾聴的な寄り添い型ピアサポートが重要かつ有用であると指摘されている。一方、不妊治療や流産の経験者の中には、自らの経験を踏まえた社会貢献活動として、現在治療中の不妊症・不育症患者に寄り添った支援（ピアサポート）を行うことに関心を持つ者が少なからず存在する。

このため、本事業では、様々な悩みや不安を抱え、複雑な精神心理状況にある不妊症・不育症患者が気軽に相談できるピアサポーターを養成するため、相談・支援にあたって必要となる基礎知識やスキルを習得するための研修を開催することや、保健師などの医療従事者に対しても、生殖心理カウンセリングなど、より医学的・専門的な知識による支援を実施できるよう、研修を実施する。併せて、各研修テーマに沿った講義のポイントやグループディスカッションでの意見や課題等をまとめた広報資料の作成と当該資料による情報発信や広報啓発を行うことにより、広く不妊症・不育症関係者に周知・広報することを目的とする。



1-2. 養成研修

1-2-1. ピアサポーター養成プログラム

不妊症・不育症に悩んでいる人の力になりたい、悩みを理解したいと思う方を対象とした、より身近な支援者であるピアサポーター育成のプログラムである。最新の医学的な知識、不妊症・不育症患者が抱える特有な悩み、ピアサポート等について学ぶとともに、ピアサポートの実践について、ロールプレイを体験し、仲間とともに学んでいくプログラムとなっている。

以下の6つの講義科目からなっている（「5-2. シラバス・講義資料」p59 参照）。

到達目標

- 1) 不妊症・不育症に関する病態、治療について理解できる。
- 2) 不妊症・不育症患者が置かれている背景について理解できる。
- 3) 相談・支援の実際と方法について理解できる。

表1. 講義テーマ・時間・講師一覧

NO	テーマ		方法	時間	講師（敬称略）
1	不妊症・不育症に関する医学的知識および一般的な治療の流れ	1. 不妊症（女性）	講義 （動画配信）	45分	真壁 友子
		2. 不妊症（男性）			今井 伸
		3. 不育症			竹下 俊行
2	不妊症・不育症に関する関連法規や支援体制		講義 （動画配信）	30分	向 亜紀 米澤 宏隆 鈴木 里美
3	不妊症・不育症患者が抱える特有の悩みや不安		講義 （動画配信）	45分	坂上明子
4	里親・養子縁組制度～制度と現状・課題点		講義 （動画配信）	30分	林 浩康
5	ピアサポート・ピアサポーターとは	1. ピアサポート・ピアサポーターとは	講義 （動画配信）	60分	安達 久美子
		2. 企業等での支援			島 大貴

		3. 傾聴スキルの実 際	グループワーク (ライブ配信)	60分	安達 久美子
6	支援の実際	1. 自助グループ活 動の実際	講義 (動画配信)	70分	近藤 裕子
		2. グリーフケア 1) グリーフケア 2) 周産期喪失を 経験した当事者の 体験から考えるグ リーフケア			1) 石井 慶子 2) 大竹 麻美 遠藤 佑子
		3. 養子縁組制度と 支援の実際			小川 多鶴

1-2-2. 医療従事者プログラム

医師、保健師、助産師、看護師、心理職、その他の専門職を対象とした、支援者養成のプログラムである。不妊症・不育症に関する最新の知見、心理・社会的支援、里親・養子縁組制度などについて学ぶとともに、参加者同士で不妊症・不育症における課題について意見交換を行い、支援のための具体的なプログラム作成し、課題を共有しながら学んでいくプログラムとなっている。

以下の6つの講義科目からなっている(「5-2. シラバス・講義資料」p59 参照)。

到達目標

- 1) 不妊症・不育症に関する病態、治療について理解できる。
- 2) 不妊症・不育症患者に対する支援について理解できる。
- 3) 自らが活動する地域や施設における課題を明確化し、支援プログラム案を作成できる。

表 2. 講義テーマ・時間・講師一覧

NO	テーマ		方法	時間	講師（敬称略）
1	不妊症・不育症に関する医学的知識および一般的な治療の流れ	1. 不妊症（女性）	講義 （動画配信）	45分	真壁 友子
		2. 不妊症（男性）			今井 伸
		3. 不育症			竹下 俊行
2	不妊症・不育症に関する関連法規や支援体制		講義 （動画配信）	30分	向 亜紀 米澤 宏隆 鈴木 里美
3	不妊症・不育症患者特有の心理・社会的支援		講義 （動画配信）	45分	森 明子
4	里親・養子縁組制度	1. 制度と現状・課題点	講義 （動画配信）	60分	林 浩康
		2. 支援の実際			田中 泰雅
5	グリーフケア	1. グリーフケア	講義 （動画配信）	50分	石井 慶子
		2. 周産期喪失を経験した当事者の体験から考えるグリーフケア			大竹 麻美 遠藤 佑子
6	支援プログラム案の作成	1. 課題抽出	グループワーク （ライブ配信）	120分	安達 久美子
		2. プログラム案作成			

1-3. 研修会開催のタイムスケジュール

研修会の開催にあたっては、4～5月にプログラム作成および講師の決定を行い、6～7月に講義動画の収録、7月より修了証発行を伴うオンデマンド講義の視聴を開始した。オンデマンド講義の受講は1月中旬まで実施し、それ以降は広報ページでの一般公開とした。

受講者の募集は、プログラムの作成と並行し春から開始し、マイページでの受講終了期日の直前まで継続して行った（「1-5.本事業の広報活動」p5 参照）。

ライブによる配信（グループワークプログラム）は11月および12月に計2日間実施した。ライブ配信に向けては、6月以降講師とプログラム内容および運営方法を検討した。それをもとに、9月から10月にかけて、グループワークに従事するファシリテーター等の確保および、スタッフの従事内容について確認と説明を行った。具体的には、協力団体（都道府県助産師会）（「1-4.事業実施体制」p5 参照）担当者への説明会の実施や、オリエンテーション動画の作成などである。

1-4. 事業実施体制

本事業の実施にあたっては、主催団体と各委託業者事業が連携を図った（図1）。

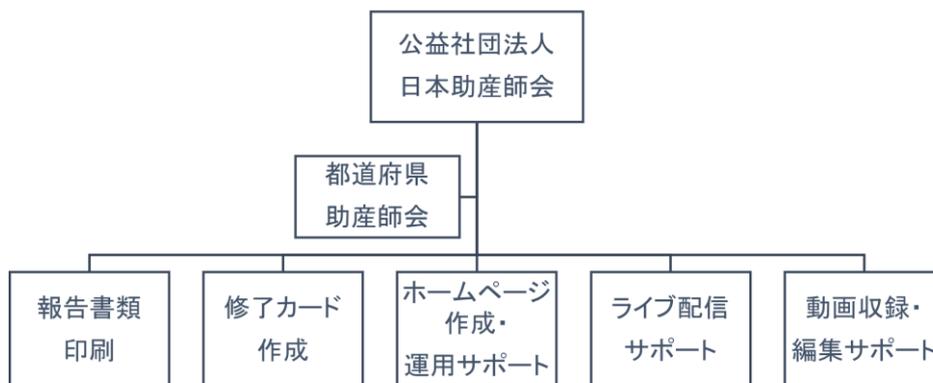


図 1. 事業実施体制

1-5. 本事業の広報活動

研修会の参加者募集を含む本事業の周知は、以下の方法で行った。

1) ポスター・チラシの作成、配布

本事業のポスターおよびチラシを作成し、2021年度実施した同事業の広報啓発チラシと合わせ、下記団体・施設等へ配布した。

- ① 全国都道府県の性と健康の相談センターを含む相談窓口 …108 か所

- ② 指定医療機関(参考:不妊に悩む方への特定治療支援事業) ……742 施設
- ③ 協力団体(都道府県助産師会)より送付した団体等(詳細は「1-5.4)協力団体(都道府県助産師会)との連携」p6-7 参照)
- ④ その他、送付依頼のあった団体等

2) 事業ホームページの作成(詳細は「1-5-1. 事業ホームページおよび受講者マイページの作成」p7 に掲載)

3) SNS(ソーシャルネットワークサービス)等の活用

Facebook、Twitter、LINE を活用し、研修等に係る情報発信および、関連団体等との連携を行った。

4) 協力団体(都道府県助産師会)との連携

本事業は、全国都道府県助産師会 6 団体(宮城県、神奈川県、静岡県、岐阜県、広島県、福岡県)との連携をもって行った。事業周知活動についても、上記体制を活用し行った。詳細は以下の通りである(表 3)。

表 3. 協力団体による事業周知の実際

対象・周知範囲	方法(媒体含む)
助産師(会員・非会員)	協力団体 HP および SNS アカウントでの事業周知 会員向けメールマガジンでの事業周知 開業助産所 HP への事業情報掲載 地区代表者会議での事業周知、協力依頼
一般	協力団体 HP および SNS アカウントでの事業周知 開業助産所 HP への事業情報掲載 地区内報道機関へのプレリリース発送 行政事業(乳児健診、産後ケア等)でのチラシ配布
看護学生向け	看護師・助産師養成機関へのチラシ・ポスター配布、メールでの事業周知依頼
性と健康の相談センター他行政担当課・県議会および市区町村議員	メールでの事業周知依頼 訪問による事業説明、参加促進 チラシ・ポスター配布 関連事業従事者間の勉強会やワークショップ等イベントの開催
不妊治療実施施設、他医療機関	チラシ・ポスター配布

協力団体、地区内関連団体など ① 専門職能団体：医師会・臨床 心理士会・公認心理士会・鍼 灸師会・柔道整復師 ② 民生委員・社会福祉協議会・ 青年会議所 ③ 地域の関連企業	メール、SNS での事業周知、HP 掲載依頼 チラシ（デジタル含む）配布 訪問による事業説明、参加促進
--	---

5) 本会会員へのメール等での周知

本会会員（助産師）には、本会ホームページ、会員専用メールや機関誌により周知を行った。

6) 関連団体との連携

助産師をはじめとする看護職および医師、その他医療従事専門職能に関する関連団体に向け、事業周知依頼を行った。また、委託元の厚生労働省との連携のもと、関連学会へも同様に周知協力依頼を行った。

7) 企業への周知

委託元の厚生労働省を通じて、人事労務マガジンへの投稿および、すこやか親子 21 応援メンバー（協賛企業 43 社・関連学会を含む NPO 団体等 13 団体）に向けた、周知メールの送付をした。本会賛助企業（全 44 社）へのメールでの情報発信も行った。

8) その他

- ・2021 年度同事業受講登録者への事業周知
- ・不妊症や不育症、里親養子縁組等支援団体への、情報共有依頼
- ・ローカルラジオへの出演

1-5-1. 事業ホームページおよび受講者マイページの作成

事業ホームページ作成にあたっては、不妊症・不育症を社会全体としての課題と捉え、これからの支援を広く考えるきっかけになることを念頭に、全ての人が本事業の対象となるということを認識してもらうよう工夫した。

1) 事業ホームページの構成

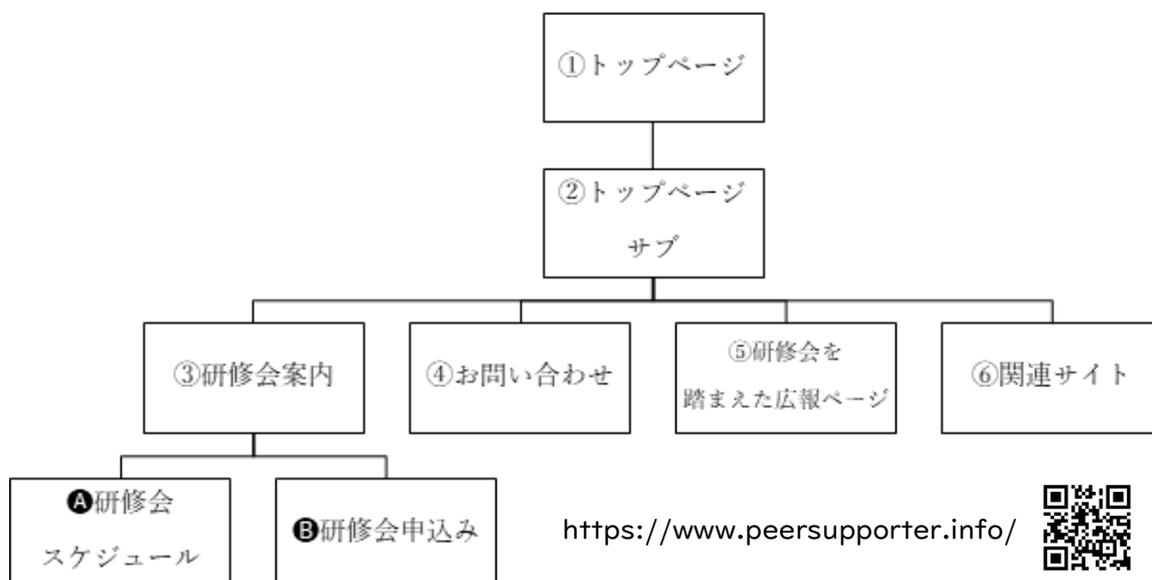


図 2. ホームページの構成

- ① トップページ : 事業の概要と社会的背景、事業対象、お知らせ、2021 年度受講者の声
- ② トップページサブ : 事業目的・企画意図、2つの研修プログラムの目的と対象
- ③ 研修会案内 : プログラム別到達目標およびカリキュラム詳細、研修受講申込み
- ④ お問い合わせ : お問い合わせフォーム
- ⑤ 広報ページ : 研修会動画の公開、研修会実施報告書掲載、2021 年度事業サイトへのリンク
- ⑥ 関連サイト : 関連団体サイトリンク

2) 受講者マイページの位置づけ

研修プログラムの内講義プログラムについては、5 か月の視聴期間内、受講者マイページからのオンデマンドによる受講を実施した。受講者マイページでは、講義の受講だけでなく、講義ごとのシラバス、資料および修了証のダウンロードを、受講者自身が手元で行えるような仕様とした(「5-1. 受講者マイページ画面」p57 参照)。

1-5-2. 広報啓発

不妊症・不育症に悩む人やその家族を支える社会を醸成していくために、以下の方法を用いて広報啓発を行った。

1) 事業ホームページ内「広報ページ」の設置

① 内容

- ・研修会講義視聴：オンデマンドによる講義プログラムの一般公開
- ・研修会実施報告：研修会の実施概要報告（本報告書）
- ・上記資料活用促進のためのデジタルチラシ
- ・2021年度同事業専用サイトへのリンク

② 周知方法

広報ページの周知については、広報活動で用いた方法（「1-5.本事業の広報活動」p5 参照）に加え、以下の方法を用いた。

- ・事業ホームページおよびマイページ上の「お知らせ」からの案内
- ・研修会受講登録者への一斉メール

2) 受講者マイページ内「ピアサポ掲示板」の設置

ピアサポーター養成プログラムを修了した受講者を中心に、「研修を終えたものの、活動の場がない」「どこで情報を得たらよいかわからない」「一緒に活動できる仲間を増やしたい」「開催するイベントを、興味のある人に知ってほしい」といった、実際のピアサポーター活動につながる支援を求める声があった。

昨年度受講者からも同様の感想があがっていたこともあり、受講者の今後の活動促進や仲間づくりを目的とした「ピアサポ掲示板」をマイページ内に設置し、受講者自身による情報発信を呼びかけた（「5-4.ピアサポ掲示板利用案内」p186 参照）。

具体的には、マイページ内の『お知らせ』に、受講登録者や関連団体から寄せられた、不妊症や不育症の支援強化につながる情報を掲載した。

寄せられた情報は、関連イベントや勉強会、研修会への参加募集、支援事業従事者の人員募集、受講者コミュニティづくりへの参加や LINE グループへの登録への誘いなど、受講者の支援活動への積極性がうかがえた。

3) オンライン交流会の開催

広報啓発も兼ね、全受講者がピアサポーター、医療者といった研修プログラムの枠を超えて集い、意見交換ができる場としてオンラインによる交流会を全プログラム終了後に2日間（午前・午後の計4回）開催した。

延べ180名が参加し、受講プログラムや職種、地域を超えた情報交換を行った。交流会は、1セッション約30分とし、1回の開催につき、4回グループメンバーを変えながら、できるだけ多くの人との交流ができるよう設定した。

オンライン交流会では、当事者、医療従事者、一般の方など様々な背景の人たちが、支援をしたいという共通の思いで交流していた。短い時間であったが、貴重な機会であるといった声がかかれ、複数回にわたって参加した受講生もいたことから、このよう場のニーズが高いことが示さ

れた。また、交流会の参加者を中心に、前述の「ピアサポ掲示板」を活用した、複数のコミュニティグループづくりの動きがみられ、受講者の支援活動にかける思いや、今後の実際の活動につながる様子うかがわれた。

1-6. 事業全体アンケート結果

本研修の受講生の背景をみると、現在不妊症や不育症に関連した活動を行っている人は、ピアサポータープログラムでは4人に1人(図28)、医療従事者プログラムでは、約半数となっていた(図29)。活動内容としては、ピアサポータープログラムでは、不妊症・不育症に悩む身近な家族や友人等への支援が最も多く、職場における支援体制の充実を含めると、身近な問題としてとらえていることがうかがえた(図30)。医療従事者プログラムでは、活動内容の詳細について、仕事での従事が7割を占めたが、残りの3割は、個人的な活動や身近に悩む方の支援と回答しており、仕事以外での活動の様子うかがえた(図32)。

研修プログラムの構成、配信時期、時間数については、7割がそう思うと回答し、ややそう思うと回答した人を含めると約98%程度の方が妥当であると回答していることから、内容、時期について適切であったと考える(図6~14)。そのため、全体の満足度も約95%が満足しており高評価であった(図15)。

また、今後の活動等に役立つものであったかという問いについても、約95%の人がそう思う、ややそう思うと回答している(図18)。そのきっかけとして、いずれのプログラムにおいても、オンデマンド講義の視聴が最も高かったが、オンライン交流会やマイページから得られた情報との回答も一定数あり、知識の獲得だけでなく、今後の活動につながる情報や仲間を得られる機会でもあったことが推察される(図21~23)。それぞれの場において、本研修で得たことが役に立つということが期待される。

特に、医療従事者プログラムにおいて、現在活動に携わっていない方が今後携わっていきたい活動は、仕事での従事と、個人的な活動や身近に悩む方の支援がほぼ半数となっていた(図33)。自身が不妊症や不育症、里親の体験者や当事者ということも含め、医療従事者としてのスキルアップだけでなく、様々なニーズをもって受講したことが垣間見えた。受講生の背景は異なっており、求めていることが異なる中、オンデマンド講義の内容が多岐にわたっていたことで、多様なニーズに対応できていたと考える。その一方で、研修を終えた後の具体的な活動の場や機会がないと回答している人もおり、研修を終えた方が活躍できる場の提供が今後求められる。

Q1. この事業を最初に目にした媒体を教えてください

- 凡例：
- ホームページ
 - 身近な人から聞いて
 - メール
 - SNS
 - チラシやポスター
 - マスメディア
 - その他

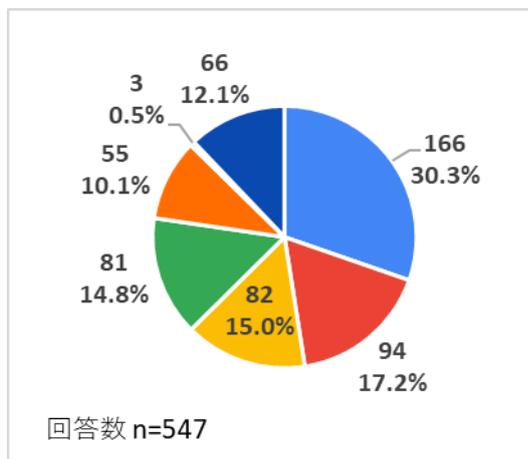


図 3. 両プログラム合計

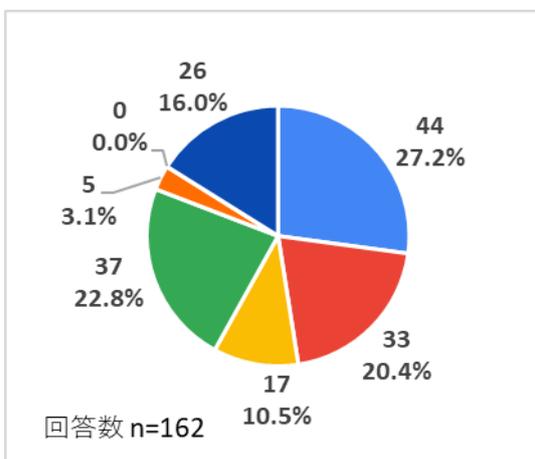


図 4. ピアサポーター養成プログラム

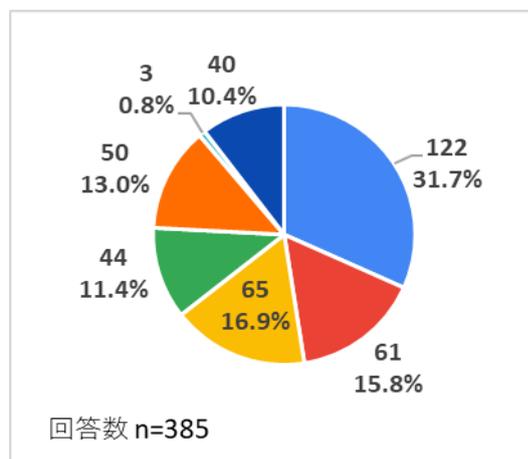


図 5. 医療従事者プログラム

Q2-1. 研修プログラムの構成は適切でしたか

- 凡例：
- そう思う
 - ややそう思う
 - あまりそう思わない
 - そう思わない

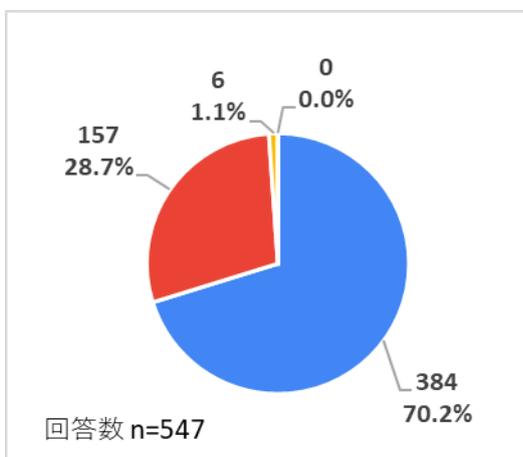


図 6. 両プログラム合計

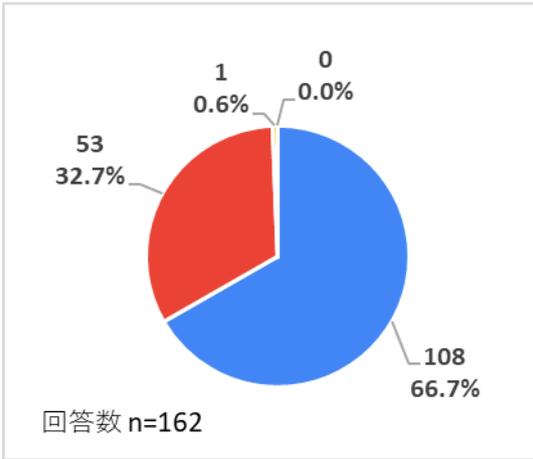


図 7. ピアサポーター養成プログラム

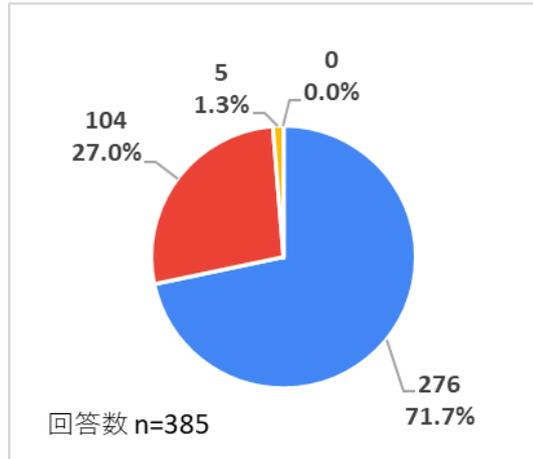


図 8. 医療従事者プログラム

Q2-2. 研修の配信期間は適切でしたか

- 凡例：
- そう思う
 - ややそう思う
 - あまりそう思わない
 - そう思わない

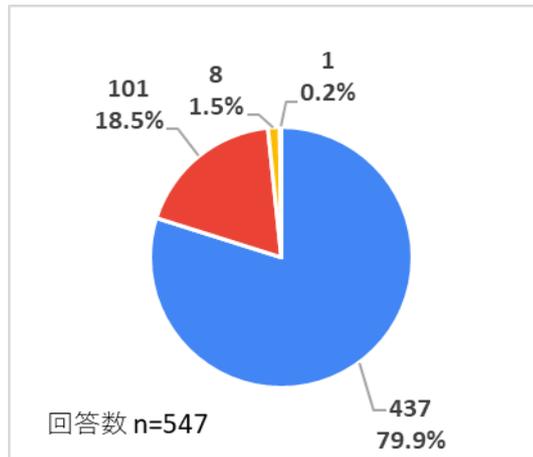


図 9. 両プログラム合計

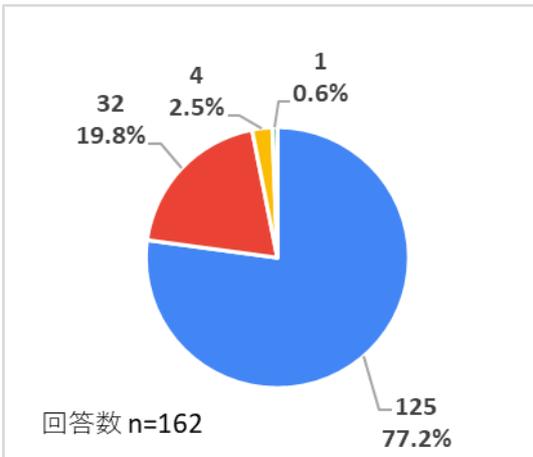


図 10. ピアサポーター養成プログラム

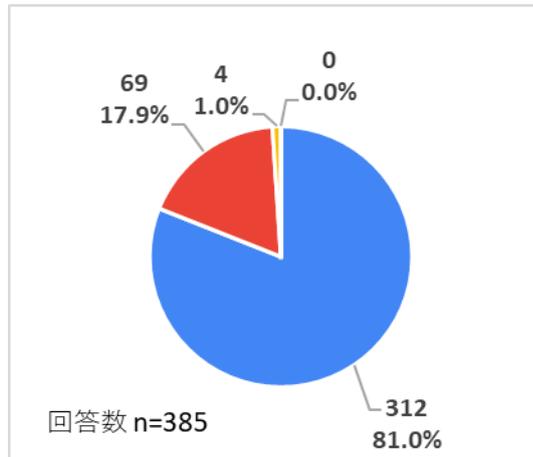


図 11. 医療従事者プログラム

Q2-3. 研修全体の時間数は適切でしたか

- 凡例：
- そう思う
 - ややそう思う
 - あまりそう思わない
 - そう思わない

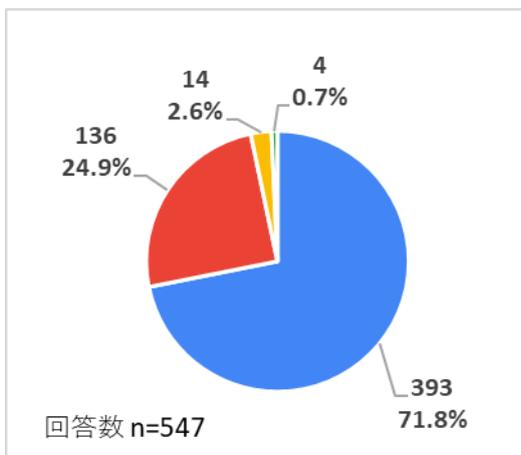


図 12. 両プログラム合計

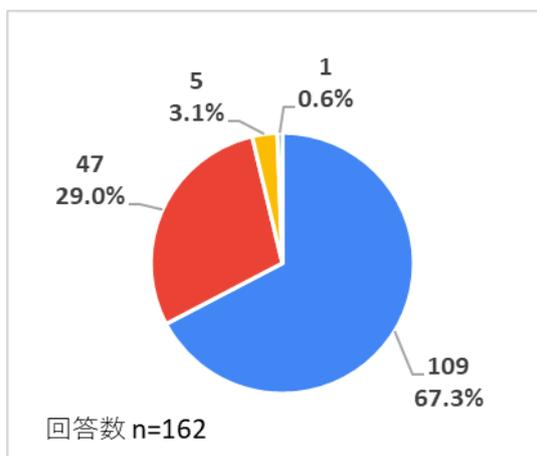


図 13. ピアサポーター養成プログラム

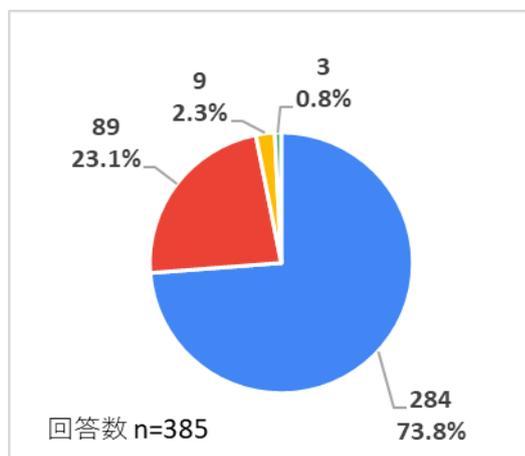


図 14. 医療従事者プログラム

Q2-4. 研修を含む本事業への満足度を教えてください

- 凡例
- 満足
 - やや満足
 - やや不満
 - 不満

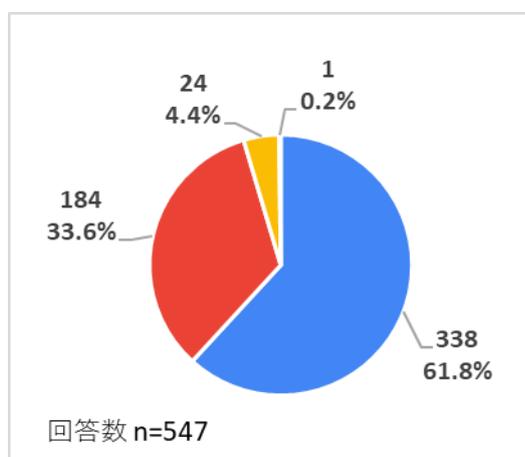


図 15. 両プログラム合計

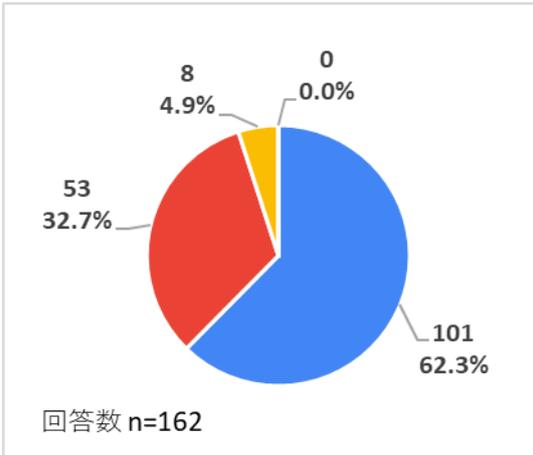


図 16. ピアサポーター養成プログラム

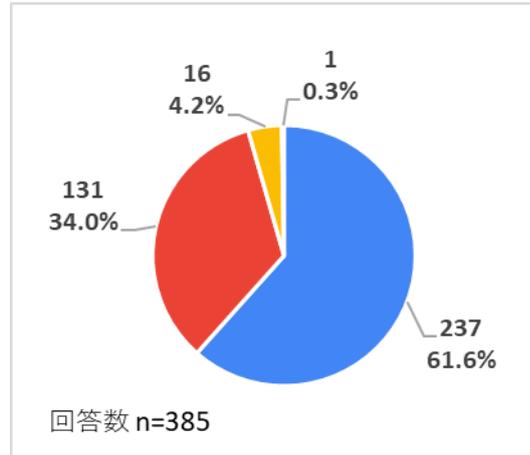


図 17. 医療従事者プログラム

Q2-5. 研修を含む本事業は今後の活動に役立つ(つながる)ものでしたか

- 凡例：
- そう思う
 - ややそう思う
 - あまりそう思わない
 - そう思わない

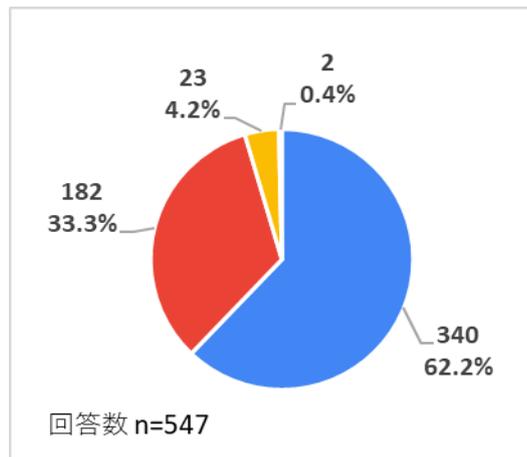


図 18. 両プログラム合計

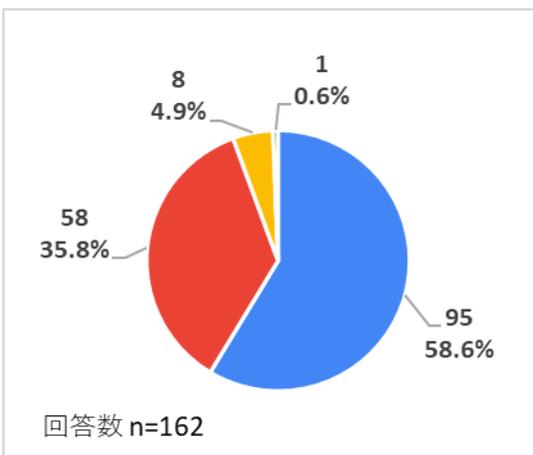


図 19. ピアサポーター養成プログラム

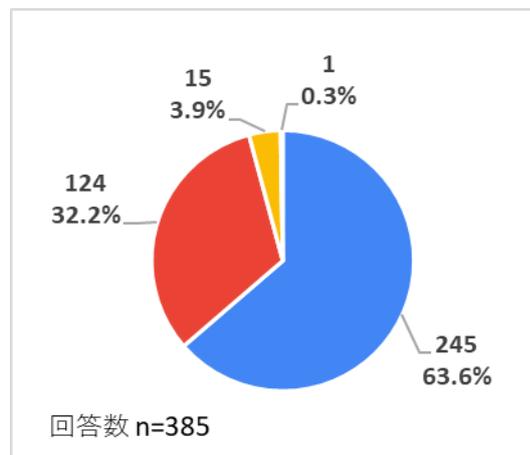


図 20. 医療従事者プログラム

Q3-1. 2-5.で「そう思う」「ややそう思う」を選択した方…そう思うきっかけとなるものを選択してください(複数回答)

<選択肢(グラフ内表記/配信アンケート内表記全文)>

- ・オンデマンド講義/オンデマンド講義の視聴
- ・ライブ配信/ライブ配信への参加
- ・オンライン交流会/オンライン交流会への参加
- ・専用サイト・SNS/事業専用サイトや事業公式SNSから得られた情報
- ・マイページ/マイページ内から得られた情報
- ・その他

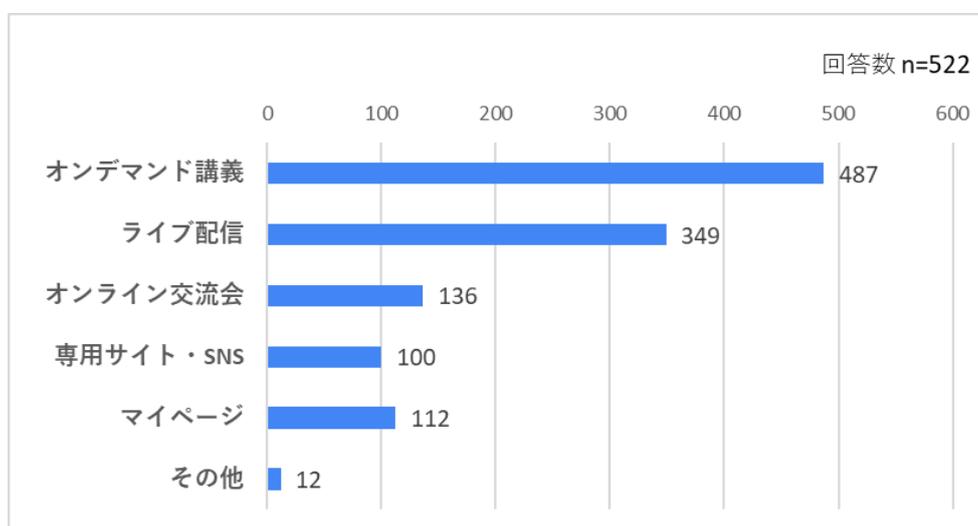


図 21. 両プログラム合計

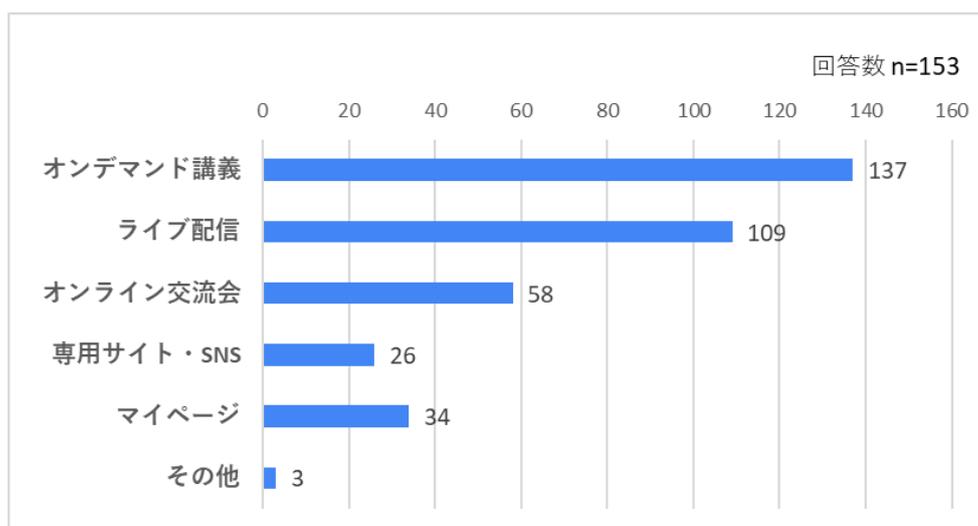


図 22. ピアサポーター養成プログラム

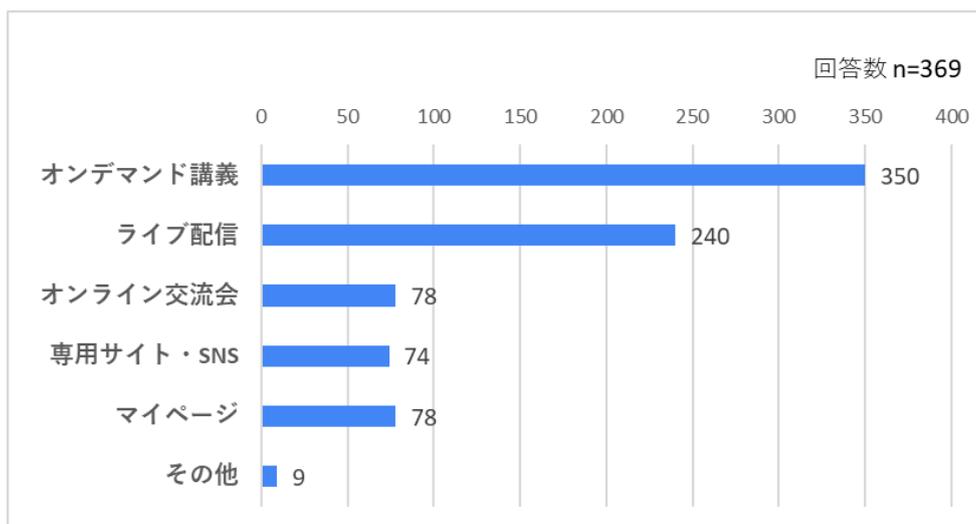


図 23. 医療従事者プログラム

Q3-1. 2-5.で「ややそう思わない」「そう思わない」を選択した方…その理由に該当するものをすべて選択してください(複数回答)

<選択肢(グラフ内表記/配信アンケート内表記全文)>

- ・現在携わっていない/現在、具体的な支援活動やサポートに携わっていない
- ・機会、場所、環境がない/支援活動やサポートにつながる機会、場所、環境がない
- ・連携の手段がない/支援活動を進める上で、仲間や専門職等との具体的な連携の手段がない
- ・さらなる学習等の必要性/さらなる学習やスキルアップ、実践の場が必要と感じる
- ・その他

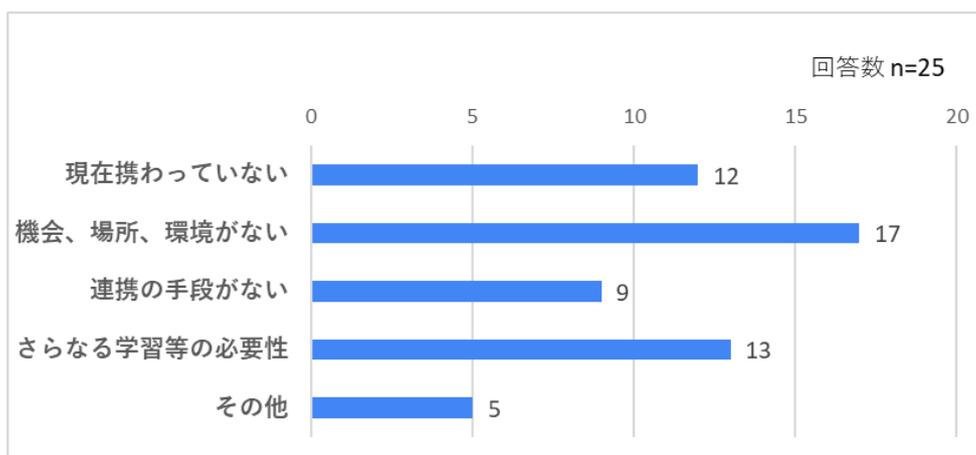


図 24. 両プログラム合計

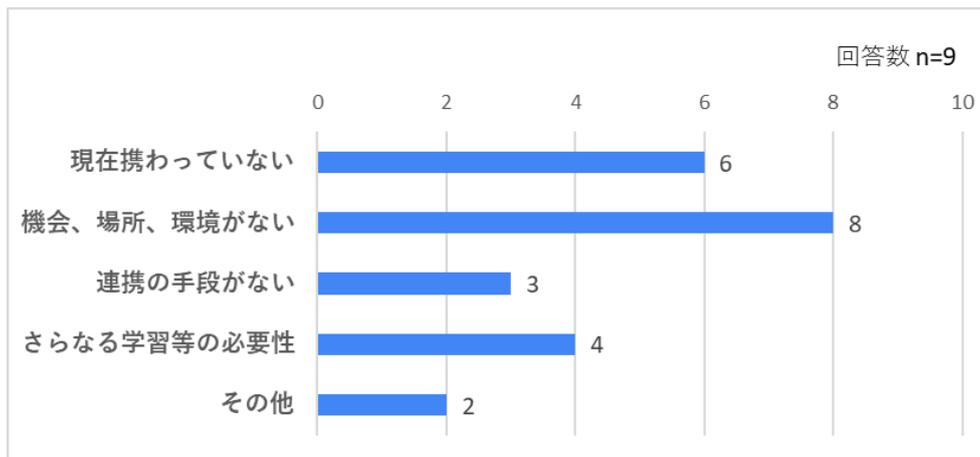


図 25. ピアサポーター養成プログラム

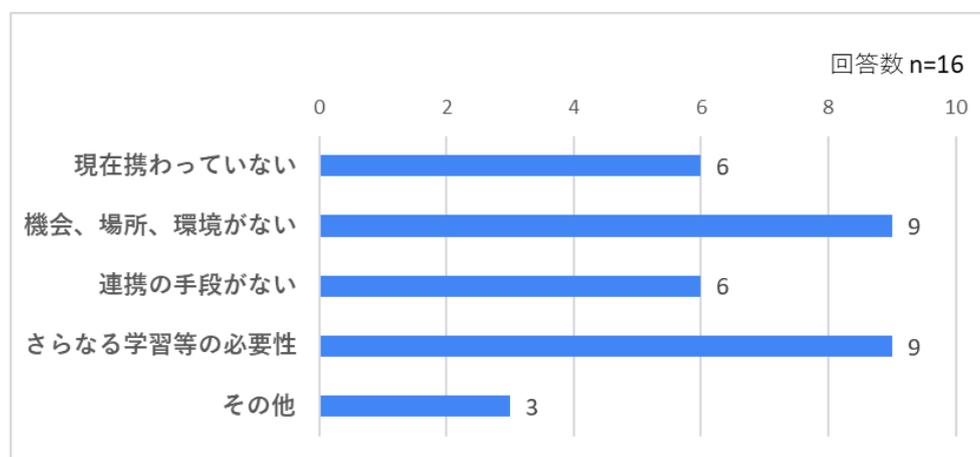


図 26. 医療従事者プログラム

Q3-2. 現在、不妊症・不育症に関する支援を行っていますか

凡例：
■ はい
■ いいえ

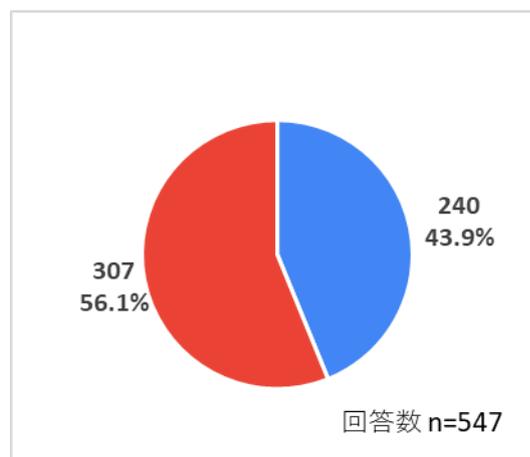


図 27. 両プログラム合計

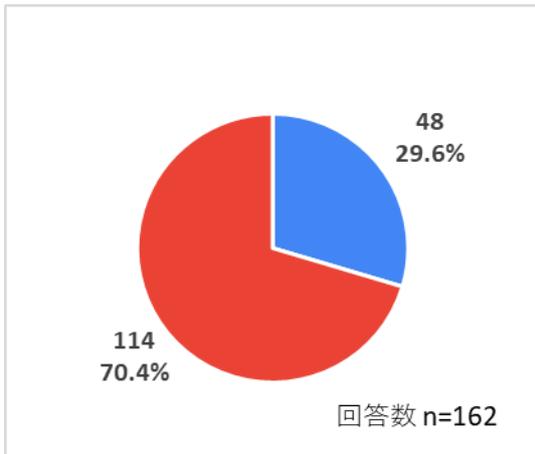


図 28. ピアサポーター養成プログラム

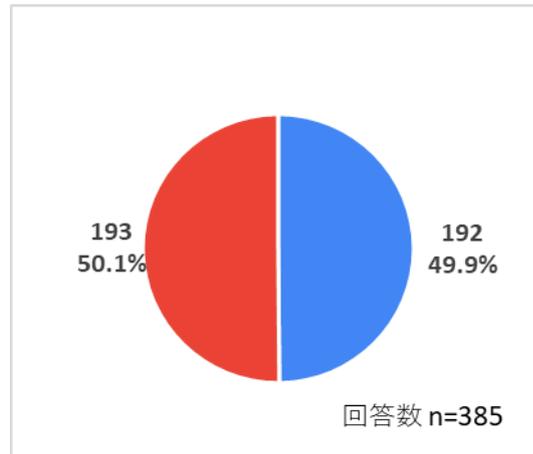


図 29. 医療従事者プログラム

Q3-3. 3-2.で「はい」とお答えになった方は現在行っている活動内容について、「いいえ」の方は今後携わっていきたいと思う活動の具体的な内容について該当するものを、すべて選択してください(複数回答)。

ピアサポーター養成プログラム

<選択肢(グラフ内表記/配信アンケート内表記全文)>

- ・身近な家族、友人等/身近な家族、友人等で不妊症・不育症に悩む方の支援
- ・既存団体等での活動/既存のピアサポートグループ等での活動
- ・自ら行う/不妊症・不育症支援に係る支援活動を自ら行う
- ・職場で/職場における不妊症・不育症に係る支援体制の充実
- ・その他

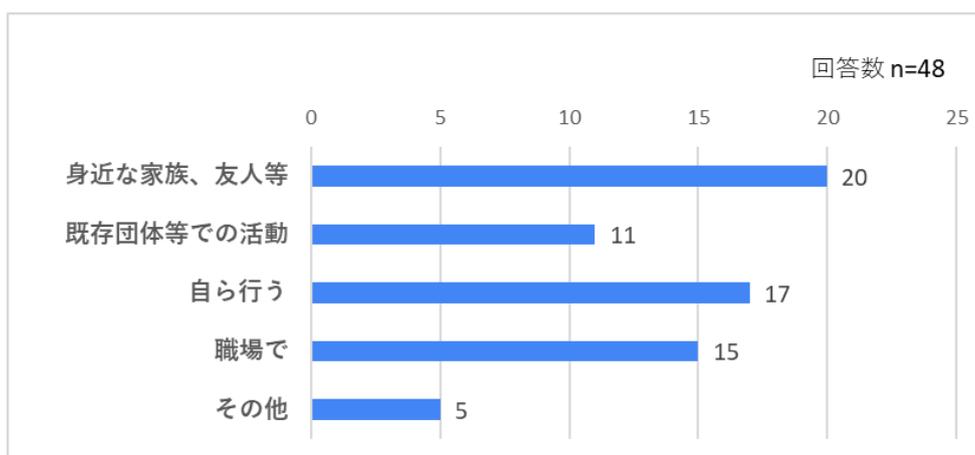


図 30. ピアサポーター養成プログラム・活動中の方

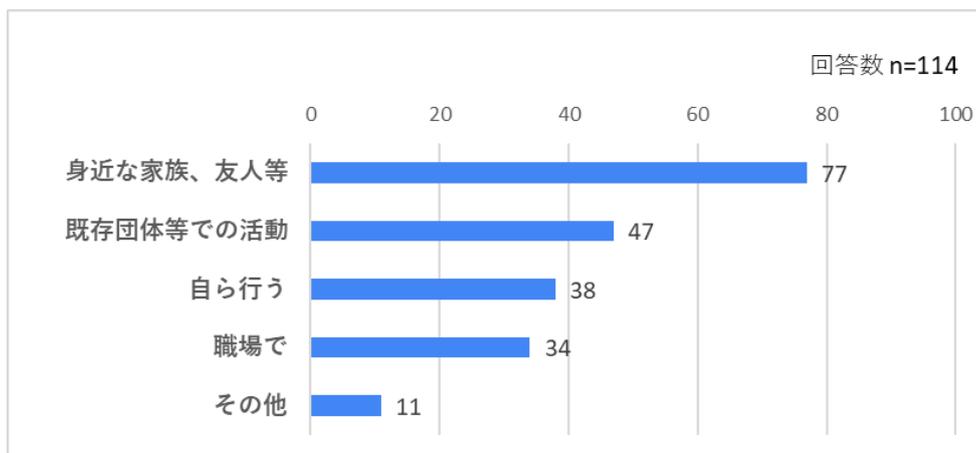


図 31. ピアサポーター養成プログラム・現在活動していない方

医療従事者プログラム

<選択肢(グラフ内表記/配信アンケート内表記全文)>

- ・仕事として/仕事として不妊症・不育症に悩む方の支援に従事
- ・個人的な活動として/個人的な活動としての支援活動
- ・身近な家族、友人等/身近な家族、友人等で不妊症・不育症に悩む方の支援
- ・その他

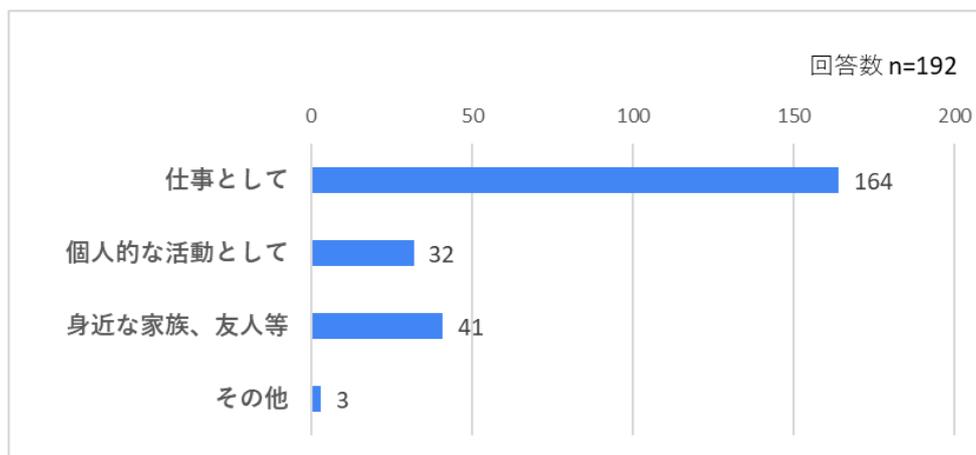


図 32. 医療従事者プログラム・活動中の方

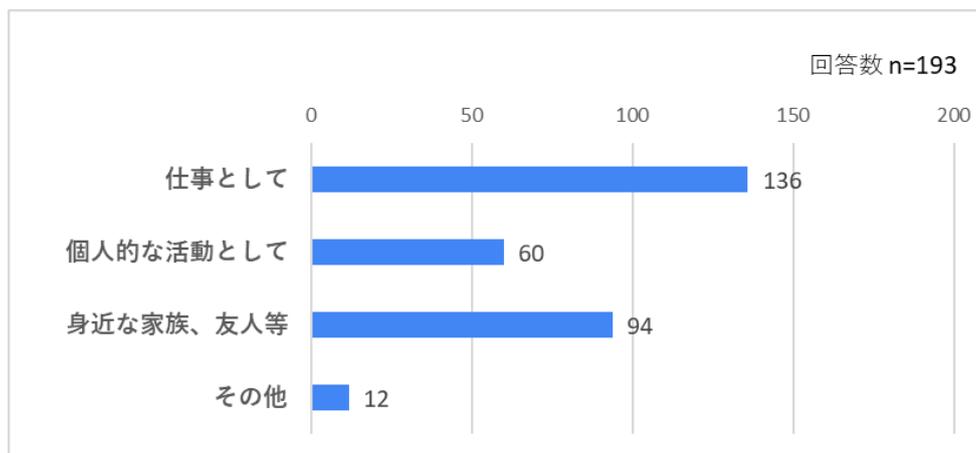


図 33. 医療従事者プログラム・現在活動していない方

2 開催実績

2-1. ピアサポーター養成プログラム

2-1-1. 受講者の概要

1) 性別

参加者の性別は、女性 832 名、男性 76 名、その他 2 名であった。

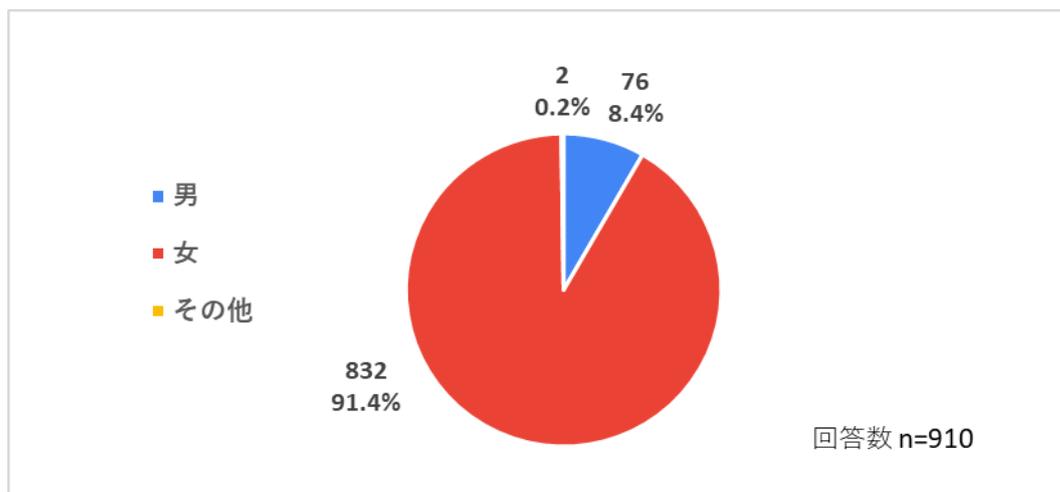


図 34. 参加者の性別

2) 年齢

参加者の年齢は、10代 31名、20代 77名、30代 330名、40代 299名、50代 133名、60代 33名、70代 4名、不明・その他が3名であった。

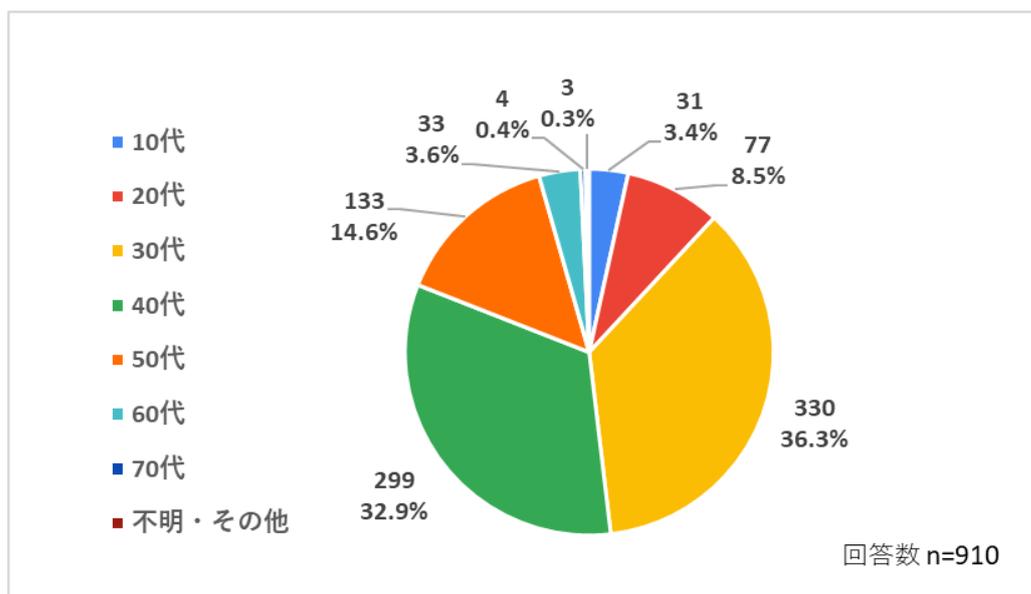


図 35. 参加者の年齢

3) 居住地

受講者の居住地は、東京都が最も多く184名、次いで神奈川県81名、福岡県79名であった。

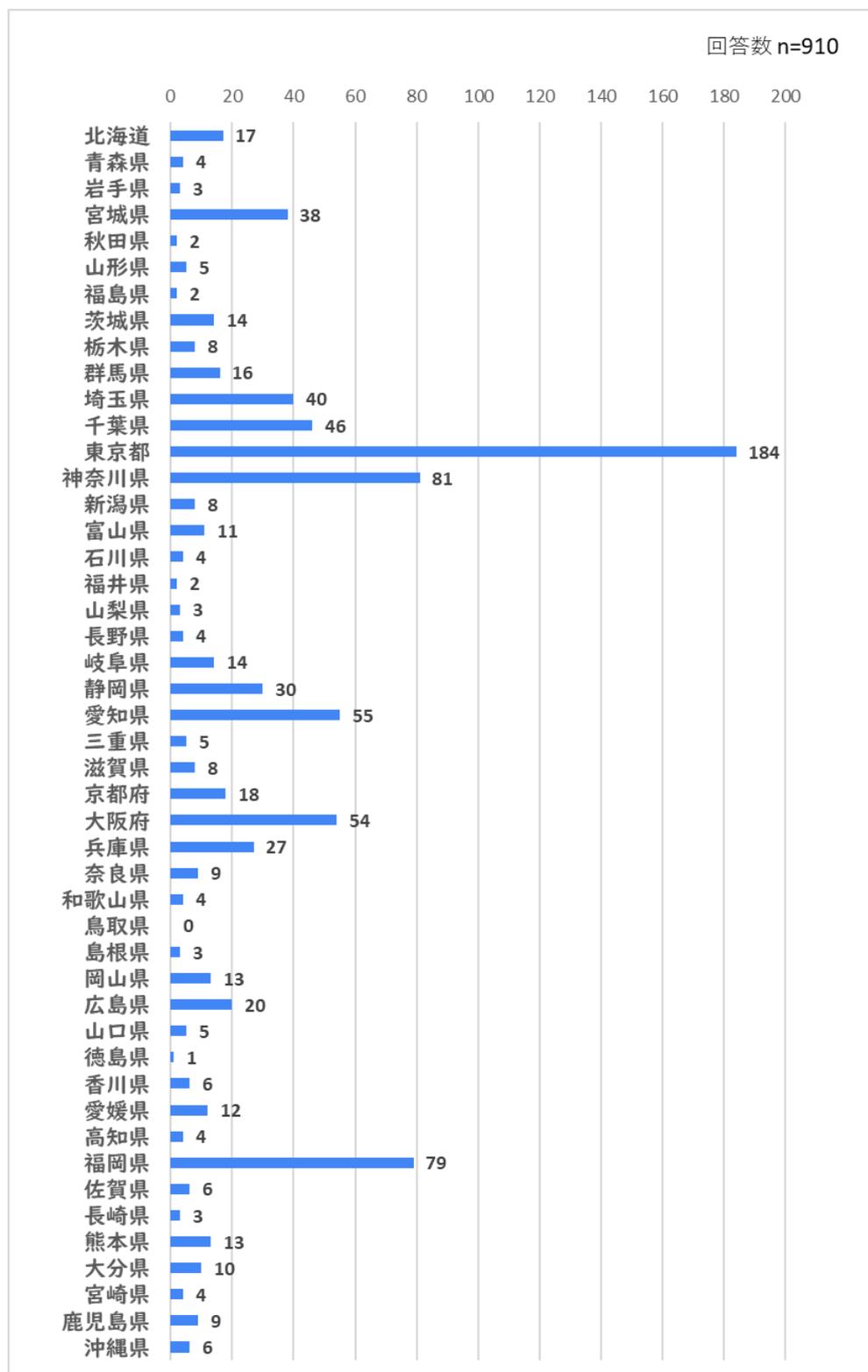


図 36. 参加者の居住地

4) 職業

職業別では多い順に、事務従事者が184名、専門的・技術的職業従事者153名、主婦145名であったが、その他の回答も多く、多様な職業に従事する方の参加が窺われた。

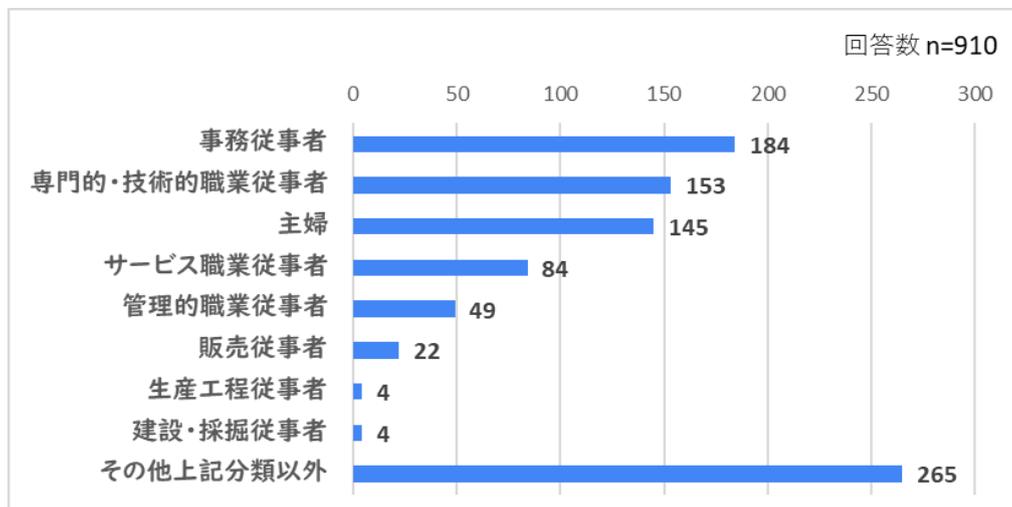


図 37. 参加者の職業

5) これまでの研修参加経験

これまでの不妊症・不育症に関する研修参加経験について、161名が「あり」、749名が「なし」の回答であった。

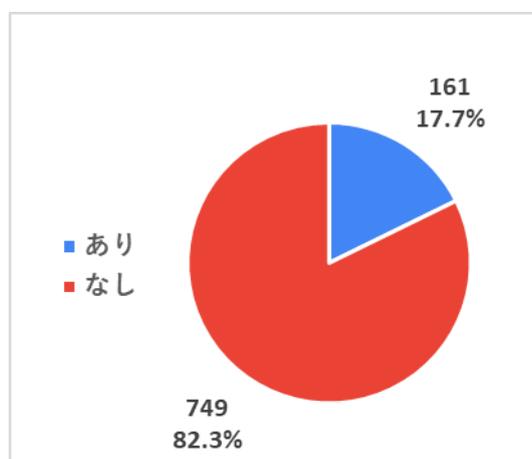


図 38. これまでの研修参加経験

6) 参加理由

研修参加の理由は、複数回答で、「不妊症・不育症に関連した最新の知識を得たい」が最も多く666名で、9割近くの参加者が回答した。次いで、今後、「不妊症・不育症患者の支援をしていきたい」が602名、「実際活動はしていないが、ピアサポート活動に興味、関心がある」が461名であった。

<選択肢(グラフ内表記/配信アンケート内表記全文)>

- ・最新知識を得たい/不妊症・不育症に関連した最新の知識を得たい
- ・現在の支援に役立てたい/現在行っている不妊症・不育症患者の支援に役立てたい
- ・今後、支援していきたい/今後、不妊症・不育症患者の支援をしていきたい
- ・当事者の人々と交流したい/不妊症・不育症の当事者の人々と交流したい
- ・職務に活用したい/職場の任務として関連ある事柄なので活用したい
- ・現在のピアサポートに活用/現在ピアサポート活動をしているので役立つ知識等を得たい
- ・ピアサポートへの興味関心/実際活動はしていないが、ピアサポート活動に興味、関心がある
- ・現在のグリーフケアに活用/現在グリーフケア活動をしているので役立つ知識等を得たい
- ・グリーフケアへの興味関心/実際活動はしていないが、グリーフケア活動に興味、関心がある
- ・その他

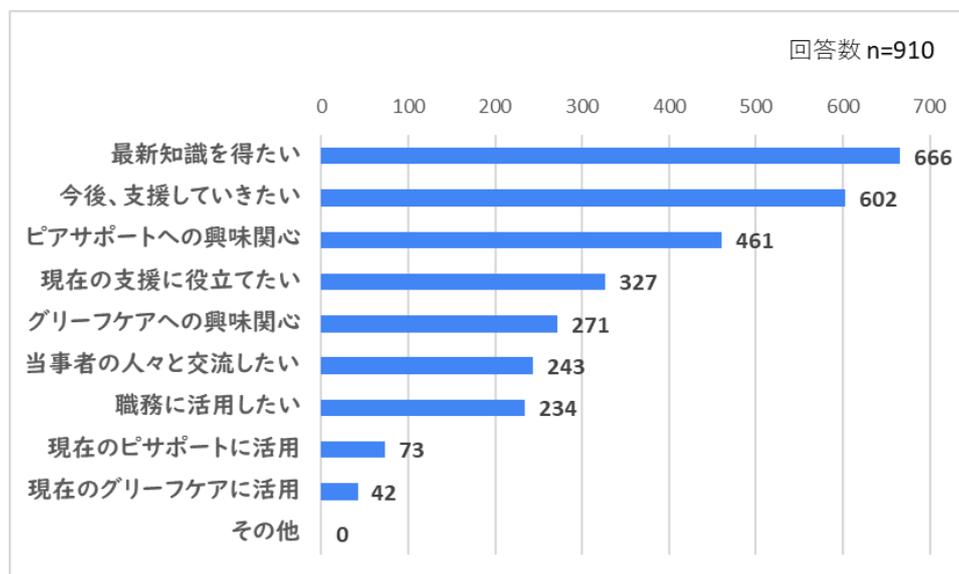


図 39. 参加理由

7) 昨年度開催の本研修参加の有無

昨年度に引き続き本研修に参加したのは 87 名で、全体の約 1 割であった。

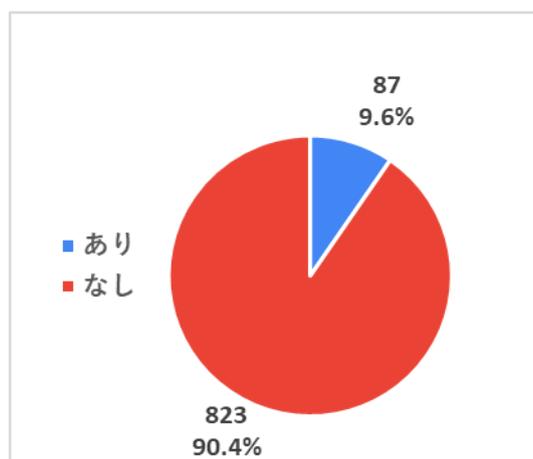


図 40. 昨年度の本研修参加有無

2-1-2. 受講状況

1) 参加申し込み者数

参加申し込み者数は、910名であった。

2) 各講義の受講者数

No	テーマ	方法	受講状況
1	不妊症・不育症に関する医学的知識および一般的な治療の流れ	講義(動画配信)	583名
2	不妊症・不育症への支援に係る制度	講義(動画配信)	549名
3	不妊症・不育症患者が抱える特有の悩みや不安	講義(動画配信)	527名
4	里親・養子縁組制度について～制度と現状・課題点	講義(動画配信)	509名
5	ピアサポート、ピアサポーターとは	講義(動画配信)	523名
		グループワーク (ライブ配信)	355名
6	支援の実際	講義(動画配信)	502名

※全ての講義動画受講済み者数：457名(50.2%)

3) 受講修了証明書およびカード発行数

338名(プログラム修了者341名)

2-1-3. グループワーク:積極的傾聴スキルの実践

1) グループワークの目的

ピアサポートを行っていくうえで、サポーターが身に着けておきたい積極的傾聴スキルについて、ロールプレイを行うことで、講義で学んだことを体験を通して理解することを目的とした。

具体的には、以下の3つをグループワークの目的とした。

- ① 積極的に傾聴するという体験を通してピアサポーターとしての支援を考える。
- ② 聴き手として、積極的傾聴を体験する。
- ③ 話し手として、積極的傾聴を体験する。

2) グループワークの進め方

グループワークの当日に、ライブ配信機能 ZOOM ミーティング内で、ブレイクアウトルーム機能を活用し、参加者をランダムに3名ずつとファシリテーター1名のグループに割り付けた。

ファシリテーター(本事業に協力いただいている都道府県助産師会から選出された助産師)が進行役となり、参加者の自己紹介、アイス・ブレイクを行った後に、ロールプレイを開始した。

- ・ロールプレイは、①話し手、②聴き手、③オブザーバーの3つの役割を順番に参加者全員がローテーションをしながら体験した。
- ・1回のロールプレイは4分間とし、終了後に①聴き手(聴き手をやってみて感じたこと)、②オブザーバー(聴き手の聴き方で印象に残ったこと)、③話し手(話し手をやってみて感じたこと)の順に1分間の振り返りを行った。

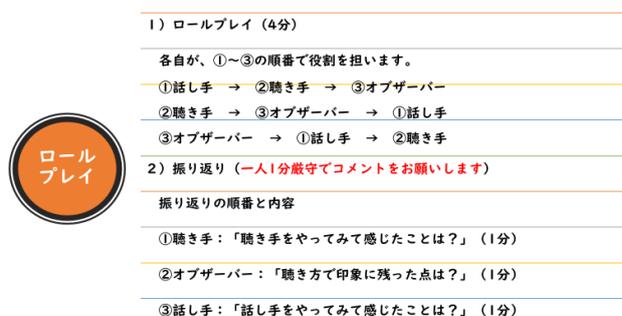


図 41. ロールプレイ手順

3) 参加者およびファシリテーターからの感想

4分という短い時間ではあったが、動画で学んだ積極的傾聴のポイントを活用しながらロールプレイが実施されていた。このような体験が全く初めての参加者もあり、最初は戸惑っている様子もあったが、ロールプレイが進むうちに、自然な会話が展開されていった。また、初対面でのグループワークとなるため、最初に、自己紹介、アイス・ブレイクを行なったことで、緊張感が緩和し、ロールプレイの進行がスムーズであった。話し手の内容によって、多少、体験が異なることがみられたが、実際

に体験することで傾聴の大切さに気付いたという意見が多く、参加者が安心して積極的傾聴を体験できていた。また、日常生活でも取り入れたいとの感想も聞かれた。

2-1-4. 受講者アンケート結果

1) オンデマンド講義プログラム

<講義テーマ>

1. 不妊症・不育症に関する医学的知識および一般的な治療の流れ
2. 不妊症・不育症に関する関連法規や支援体制
3. 不妊症・不育症患者が抱える特有の悩みや不安
4. 里親・養子縁組制度～制度と現状・課題点
5. ピアサポート・ピアサポーターとは

Q1. 講義の内容について、受講されての理解について教えてください。

テーマ No.	1	2	3	4	5	6
a.よく理解できた	319	216	288	237	317	253
b.理解できた	253	285	232	250	198	237
c.どちらでもない	9	37	6	18	4	10
d.あまり理解できなかった	2	11	1	4	3	2
e.理解できなかった	0	0	0	0	1	0
合計	583	549	527	509	523	502

凡例： ■ a.よく理解できた

■ b.理解できた

■ c.どちらでもない

■ d.あまり理解できなかった

■ e.理解できなかった

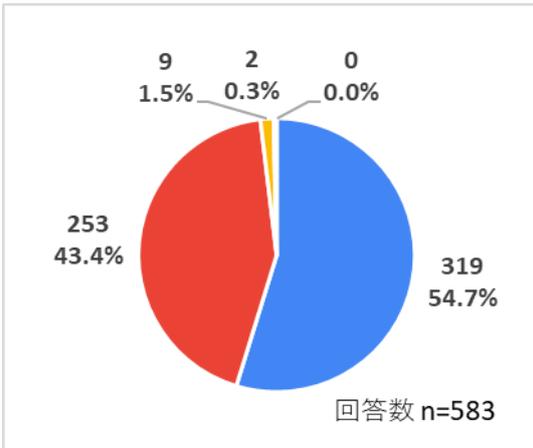


図 42. 講義別理解度：テーマ No. 1

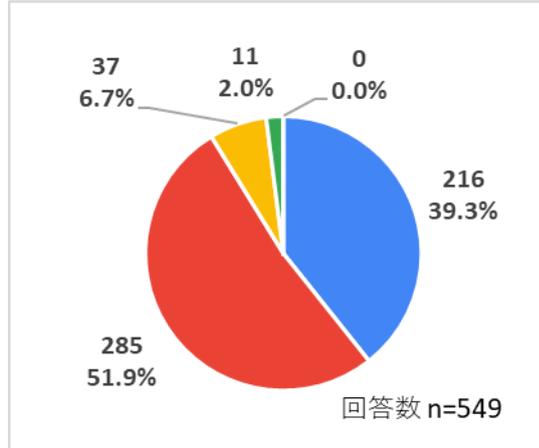


図 43. 講義別理解度：テーマ No. 2

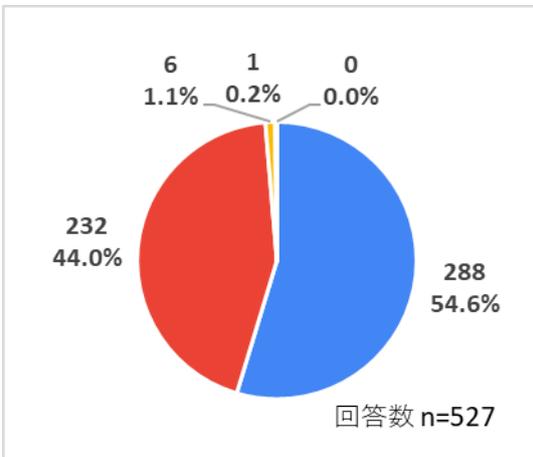


図 44. 講義別理解度：テーマ No. 3

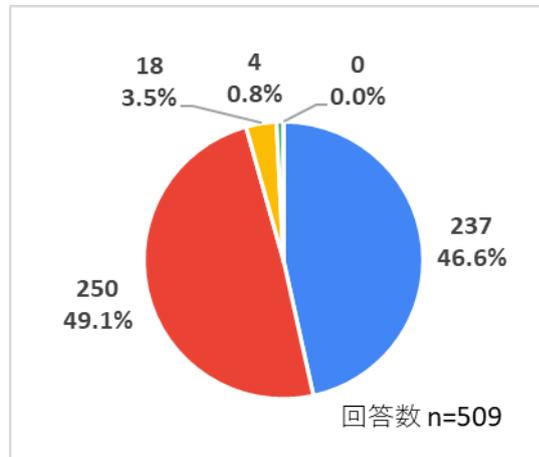


図 45. 講義別理解度：テーマ No. 4

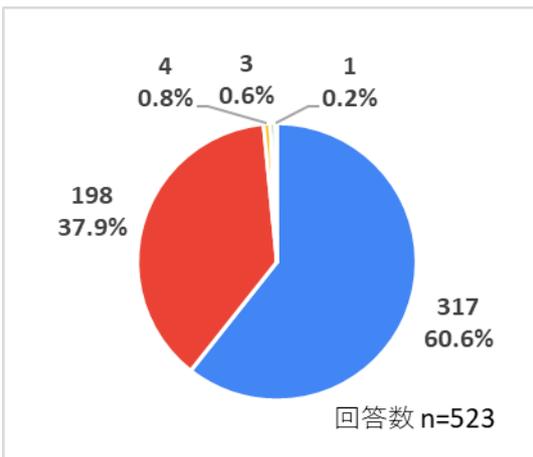


図 46. 講義別理解度：テーマ No. 5

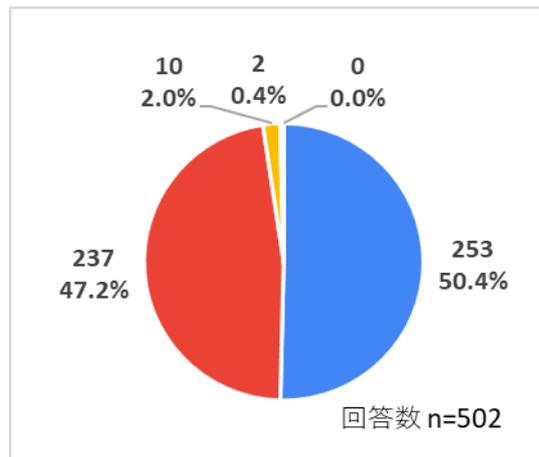


図 47. 講義別理解度：テーマ No. 6

Q2. 講義でとりあげた内容について、お考えを教えてください。(複数回答)

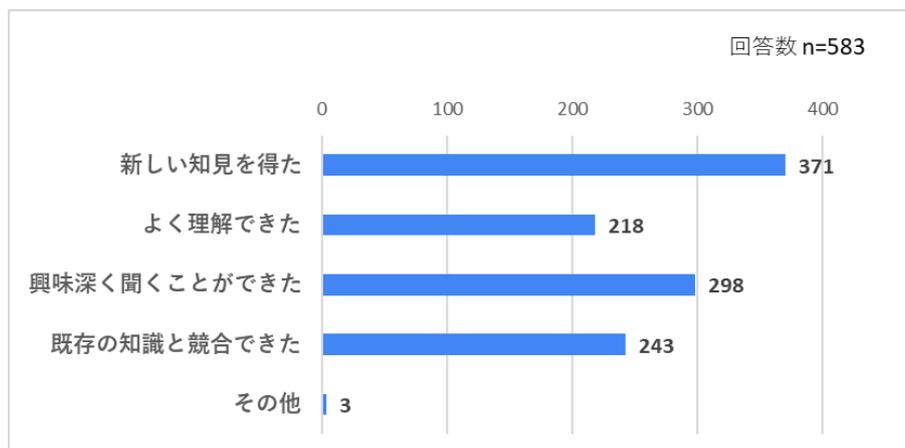


図 48. 講義内容についての考え：テーマ No. 1

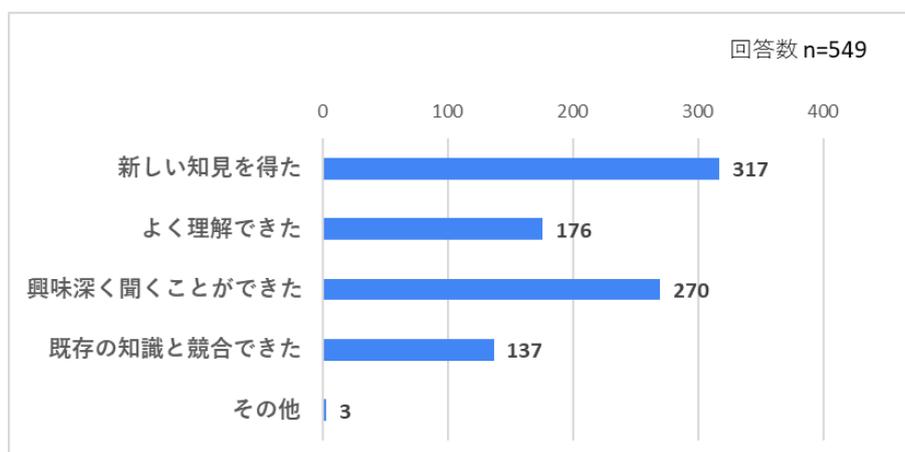


図 49. 講義内容についての考え：テーマ No. 2

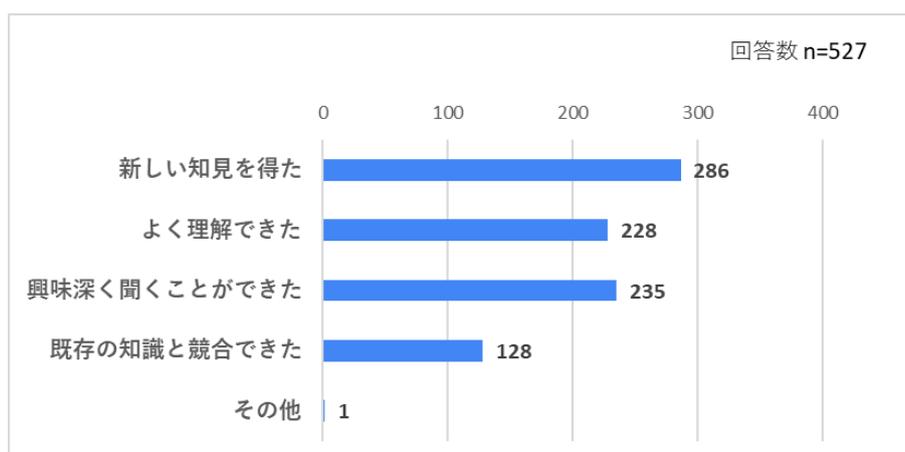


図 50. 講義内容についての考え：テーマ No. 3

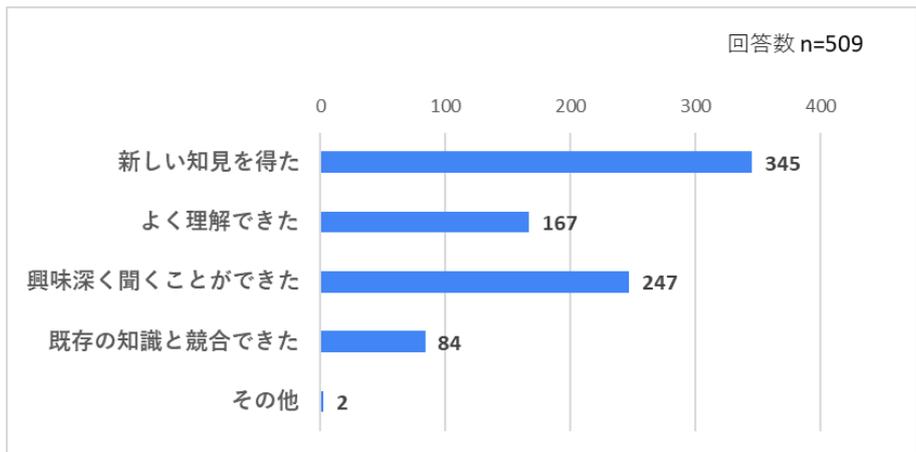


図 51. 講義内容についての考え：テーマ No.4

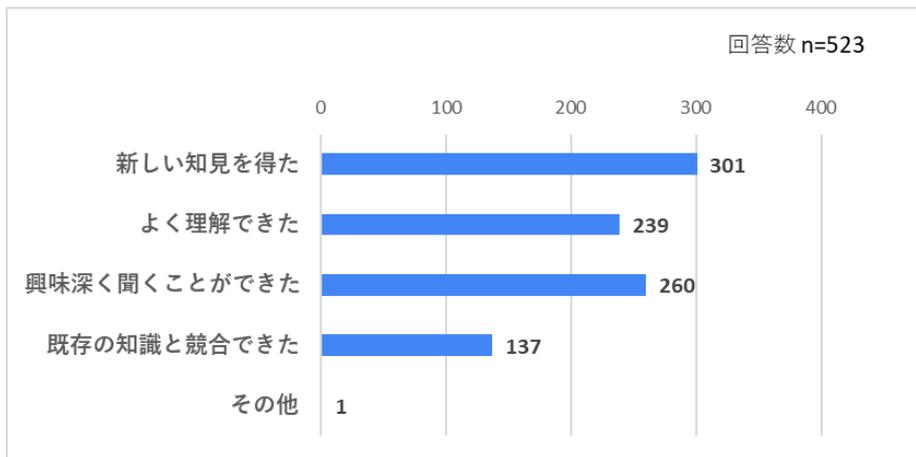


図 52. 講義内容についての考え：テーマ No.5

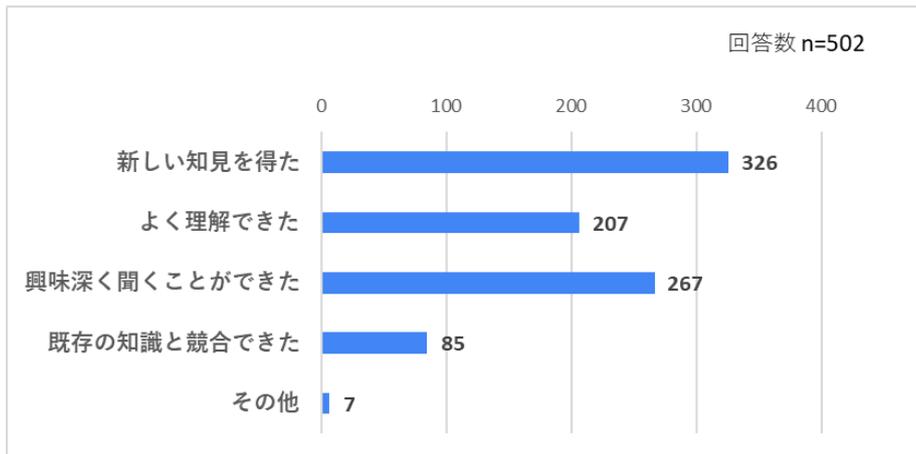


図 53. 講義内容についての考え：テーマ No.6

Q3. 講義でとりあげた内容について、今後のご自身の業務や活動に活かせると思いますか。

テーマNo.	1	2	3	4	5	6
思う	323	280	307	218	361	290
やや思う	195	203	165	173	123	162
どちらでもない	61	52	53	94	34	47
やや思う思わない	2	9	0	19	1	2
思わない	2	5	2	5	4	1
合計	583	549	527	509	523	502

- 凡例：
- 思う
 - やや思う
 - どちらでもない
 - やや思う思わない
 - 思わない

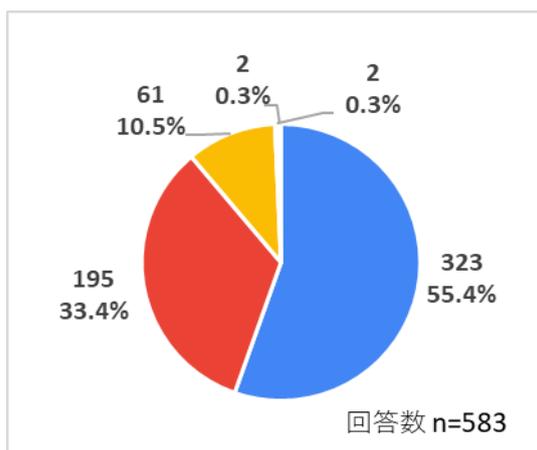


図 54. 今後の活動への活用：テーマ No.1

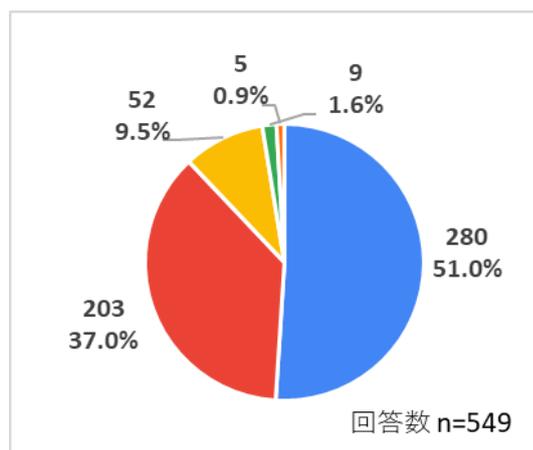


図 55. 今後の活動への活用：テーマ No.2

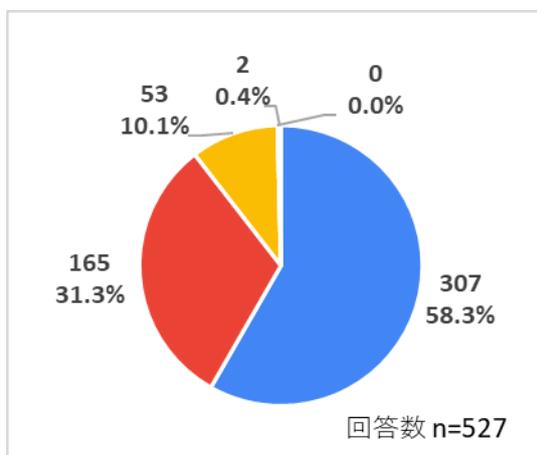


図 56. 今後の活動への活用：テーマ No.3

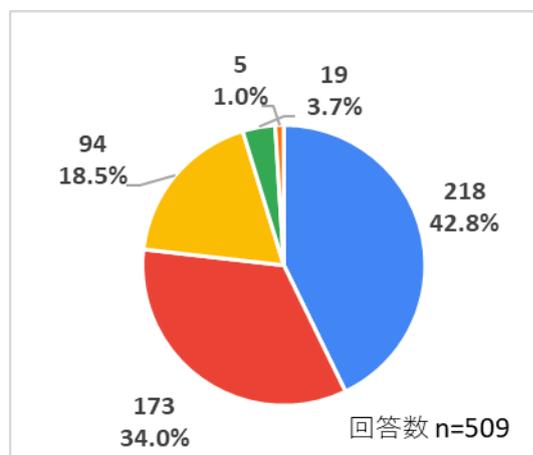


図 57. 今後の活動への活用：テーマ No.4

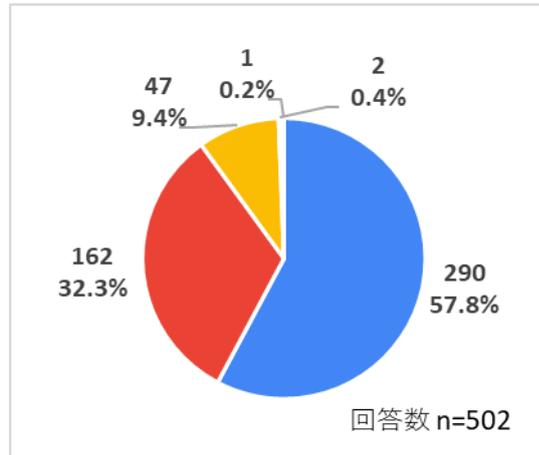
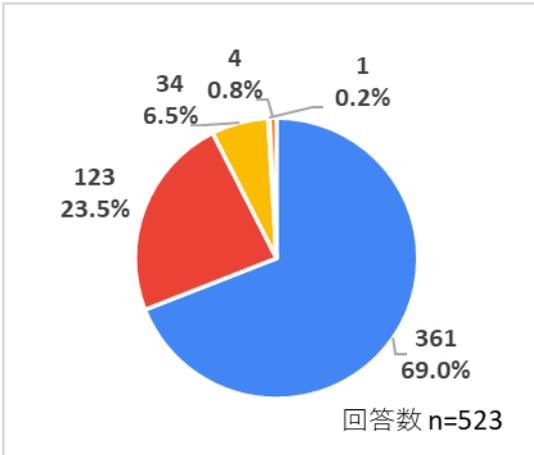


図 58. 今後の活動への活用：テーマ No.5 図 59. 今後の活動への活用：テーマ No.6

Q4. 研修方法（オンラインによる研修）についての満足度を教えてください。

テーマ No.	1	2	3	4	5	6
満足	434	358	398	357	410	381
やや満足	130	150	112	123	101	110
どちらでもない	14	29	15	23	12	11
やや不満	3	8	1	4	0	0
不満	2	4	1	2	0	0
合計	583	549	527	509	523	502

凡例： ■ 満足 ■ やや満足 ■ やや不満 ■ 不満

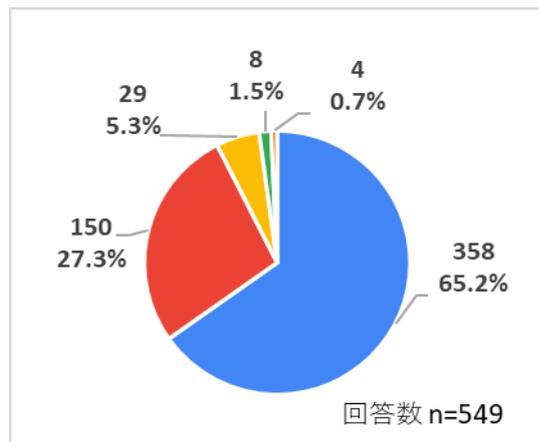
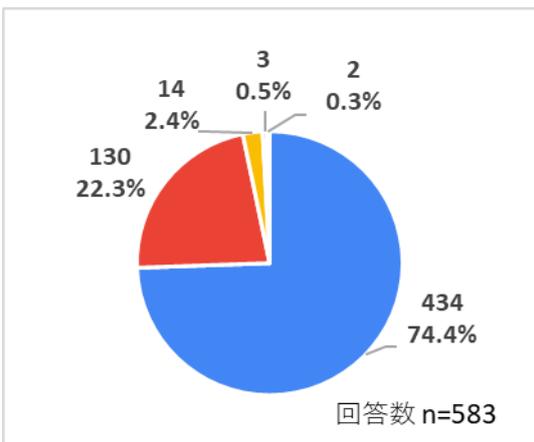


図 60. 研修方法への満足度：テーマ No.1 図 61. 研修方法への満足度：テーマ No.2

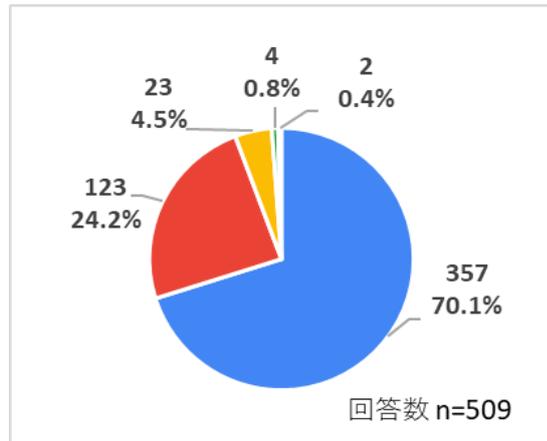
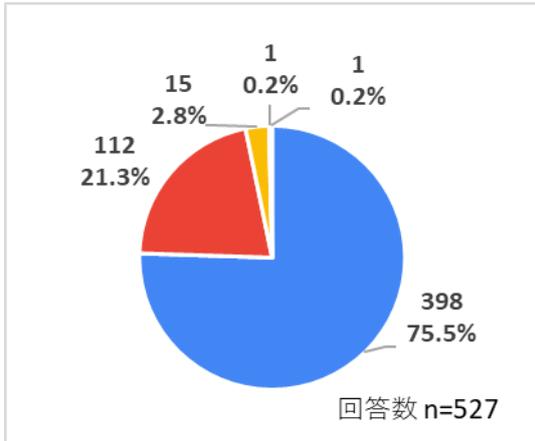


図 62. 研修方法への満足度：テーマ No.3 図 63. 研修方法への満足度：テーマ No.4

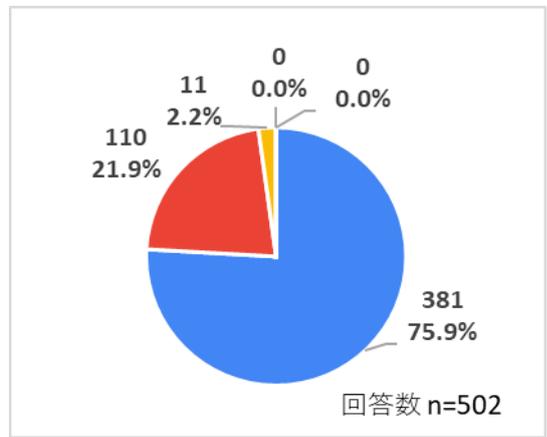
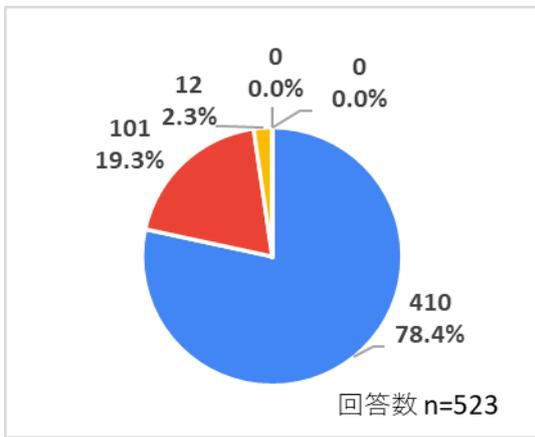


図 64. 研修方法への満足度：テーマ No.5 図 65. 研修方法への満足度：テーマ No.6

2) ライブ配信 (グループワーク) プログラム

Q1. 講義の内容について、受講されての理解について教えてください。

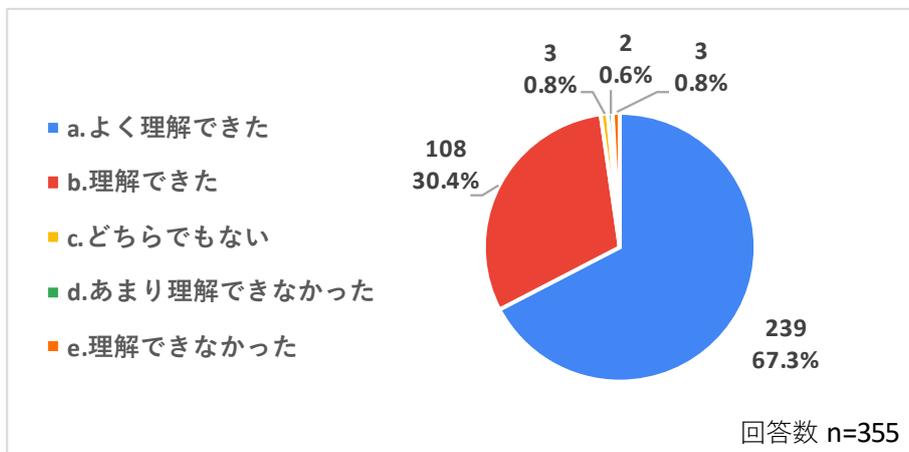


図 66. ライブ配信の理解度

Q2. 講義でとりあげた内容について、お考えを教えてください。(複数回答)

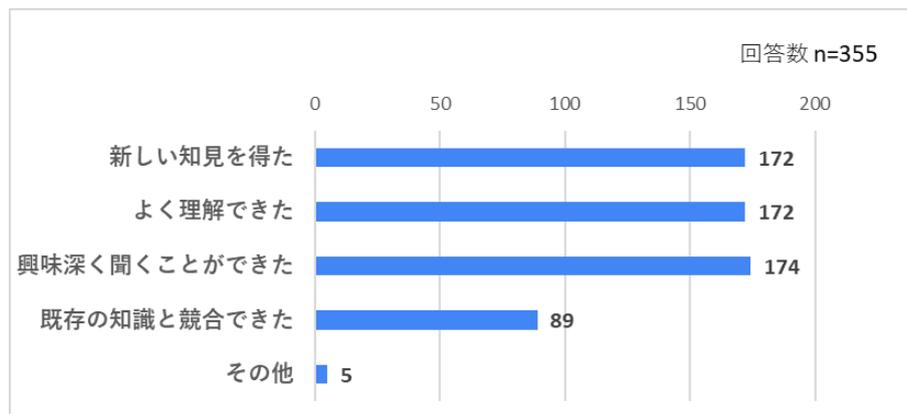


図 67. ライブ配信内容についての考え

Q3. 講義でとりあげた内容について、今後のご自身の業務や活動に活かせると思いますか。

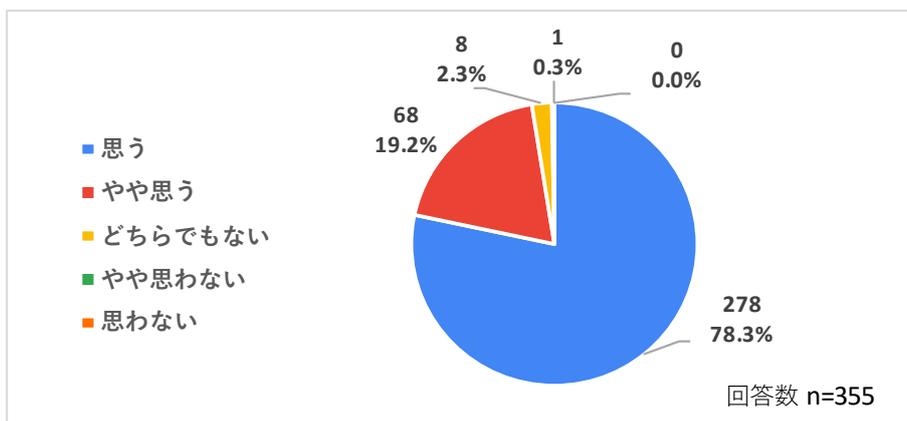


図 68. ライブ配信内容の今後の活動への活用

Q4. 研修方法(オンラインによる研修)についての満足度を教えてください。

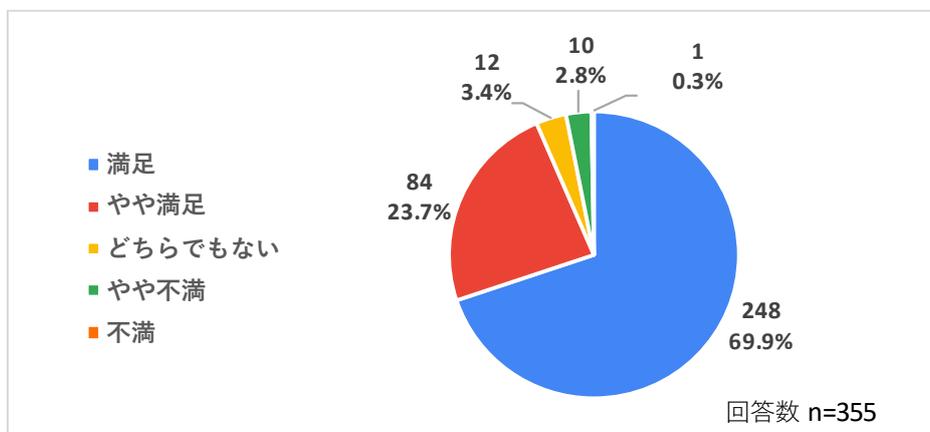


図 69. ライブ配信内容の研修方法についての満足度

2-2. 医療従事者プログラム

2-2-1. 受講者の概要

1) 性別

参加者の性別は、男性 67 名、女性 2,246 名、その他 3 名であった。

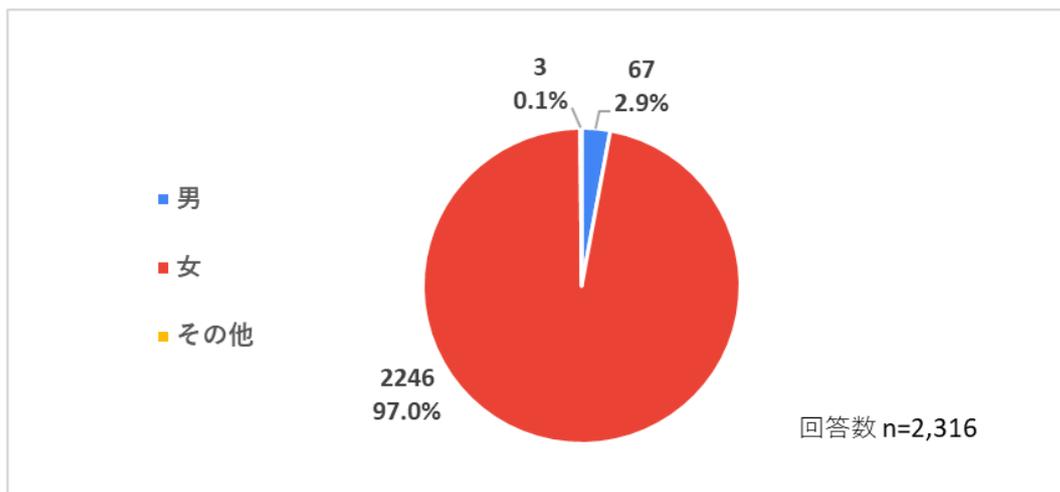


図 70. 参加者の性別

2) 年齢

参加者の年齢は、10代 1 名、20代 265 名、30代 682 名、40代 689 名、50代 511 名、60代 145 名、70代 11 名、不明・その他が 9 名であった。

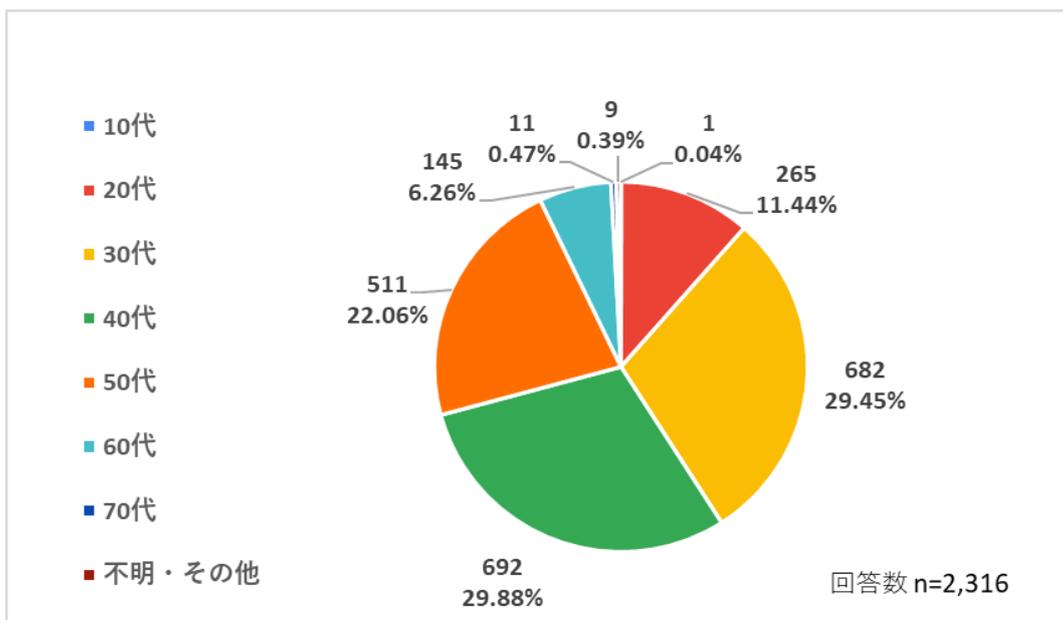


図 71. 参加者の年齢

3) 居住地

受講者の居住地は、東京都が最も多く 336 名、次いで大阪府 185 名、神奈川県 163 名であった。

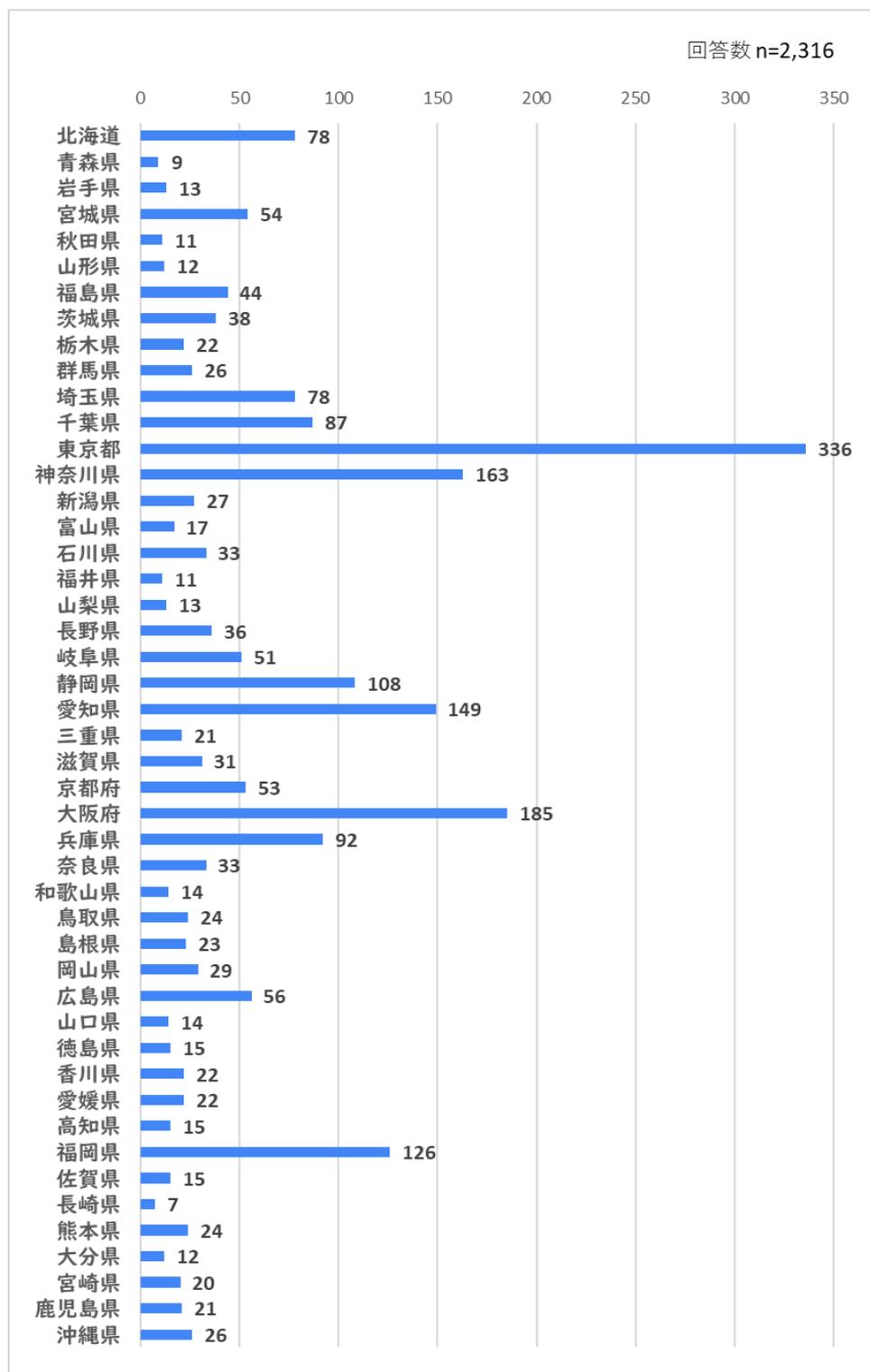


図 72. 参加者の居住地

4) 職業

助産師が最も多く 1,280 名で、全体の過半数を上回った。次いで看護師 356 名、保健師 243 名であった。

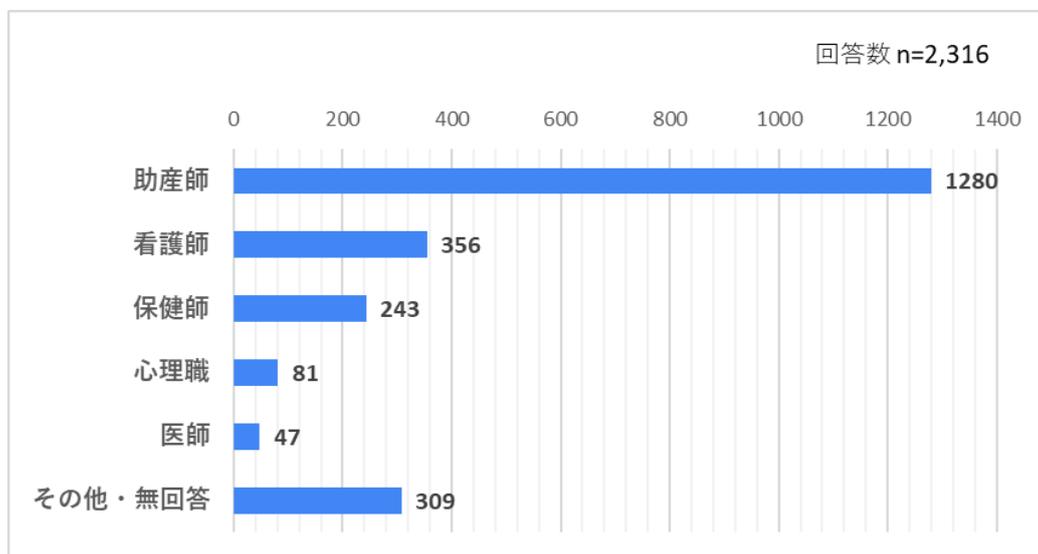


図 73. 参加者の職業

5) 受講者の主な活動場所

医療機関（病院）が最も多く 832 名、次いで医療機関（診療所）が 410 名、行政機関および関連施設が 340 名であった。

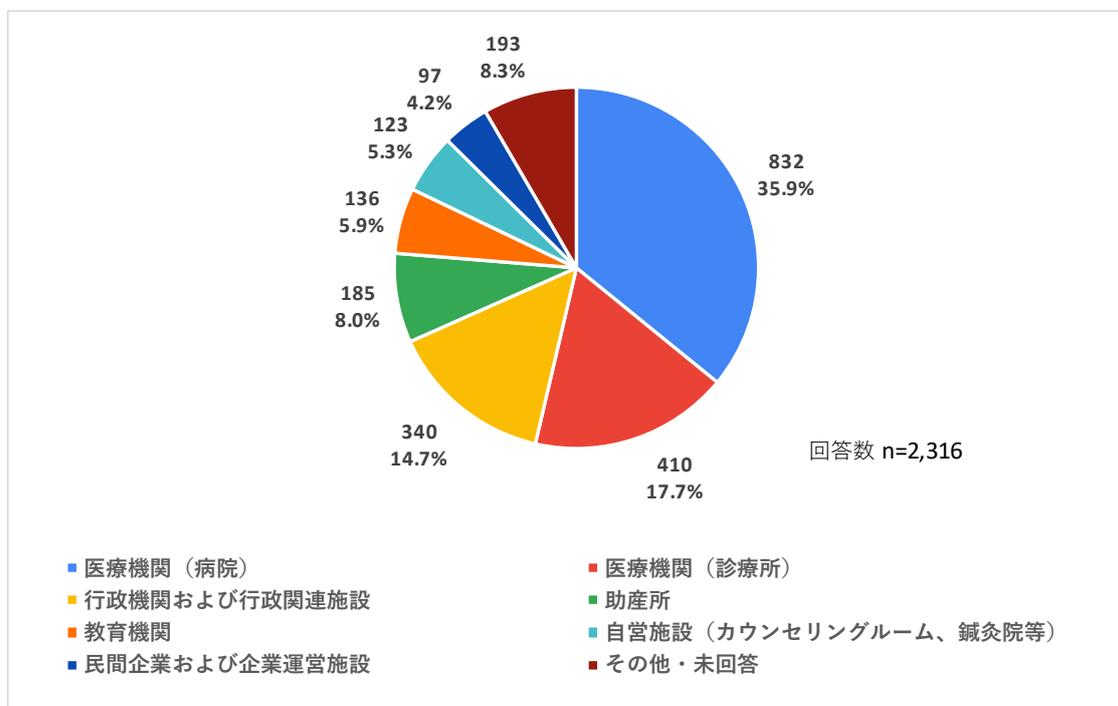


図 74. 主な活動場所

6) 研修に参加した理由(複数回答)

受講理由は複数回答で、2,072 名が「不妊症・不育症に関連した最新の知識を得たい」と回答した。次いで「今後、不妊症・不育症患者の支援をしていきたい」が 1,441 名、「現在行っている不妊症・不育症患者の支援を役立てたい」が 1,174 名であった。

<選択肢(グラフ内表記/配信アンケート内表記全文)>

- ・最新の知識を得たい/不妊症・不育症に関連した最新の知識を得たい
- ・支援に役立てたい/現在行っている不妊症・不育症患者の支援に役立てたい
- ・今後、支援していきたい/今後、不妊症・不育症患者の支援をしていきたい
- ・ピアサポートへの興味関心/ピアサポートに興味、関心がある
- ・グリーフケアへの興味関心/グリーフケアに興味、関心がある)
- ・支援者同士で交流したい/不妊症・不育症の支援に関わる人々と交流したい
- ・その他

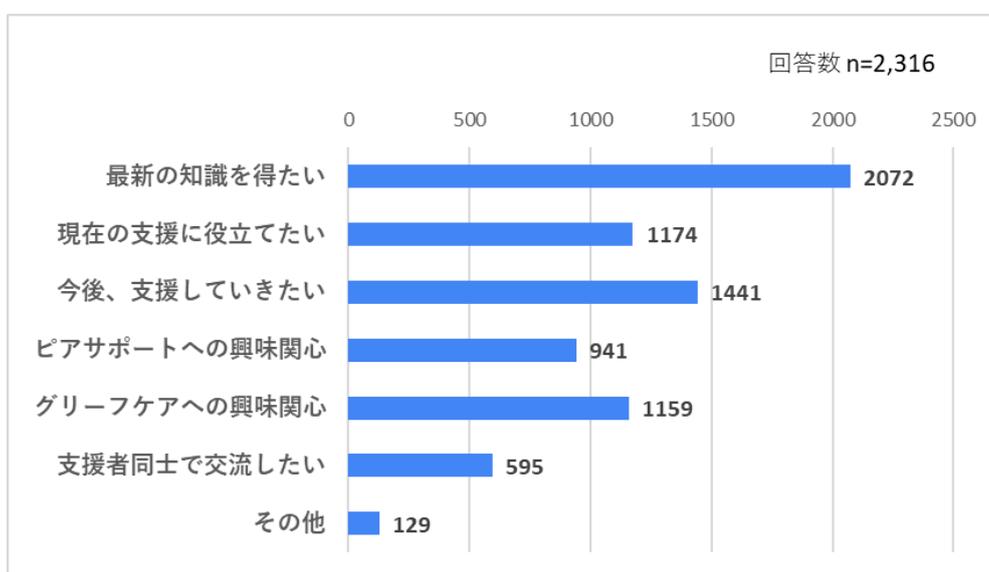


図 75. 研修への参加理由

7) 不妊症・不育症に関する研修参加経験

これまでに不妊症・不育症に関する研修に参加した経験は、884 名が「ある」、1,432 名が「ない」と回答した。

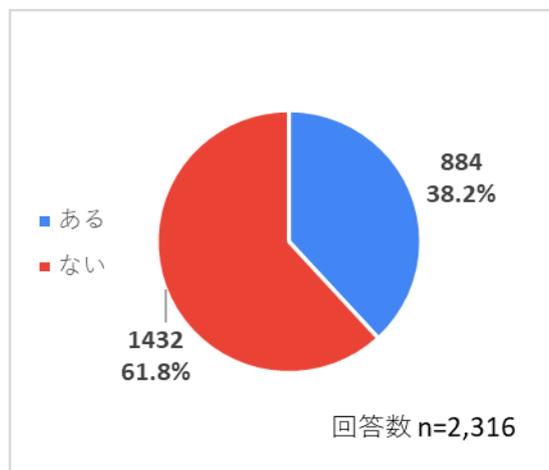


図 76. これまでの研修参加経験

8) 昨年度開催の本研修参加経験

昨年度に引き続き本研修に参加したのは 284 名、プログラム参加者の約 12%であった。

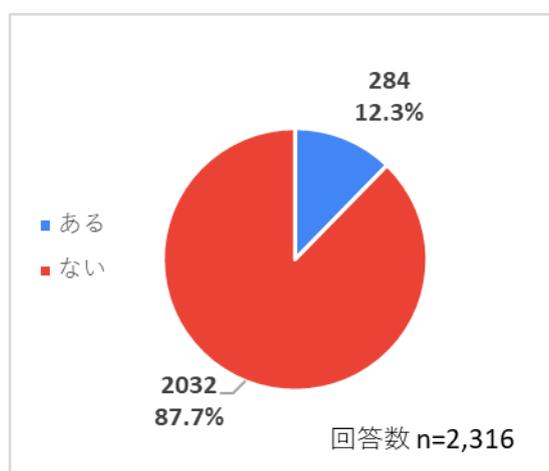


図 77. 昨年度の本研修参加経験

2-2-2. 受講状況

1) 参加申し込み者数

参加申し込み者数は、2,316 名であった。

2) 各講義の受講者数

No	テーマ	方法	受講状況
1	不妊症・不育症に関する医学的知識および一般的な治療の流れ	講義(動画配信)	1,751名
2	不妊症・不育症への支援に係る制度	講義(動画配信)	1,710名
3	不妊症・不育症患者特有の心理・社会的支援	講義(動画配信)	1,642名
4	里親・養子縁組制度	講義(動画配信)	1,580名
5	グリーフケア	講義(動画配信)	1,524名
6	支援プログラム案の作成	グループワーク (ライブ配信)	1,088名 (受講登録済のスタッフ;記録係を含む)

※全ての講義動画受講済み者数：1,505名（65.0%）

3) 受講修了証明書およびカード発行数

1,073名（プログラム修了者1,074名）

2-2-3. グループワーク:支援プログラム案の作成

医療従事者が、現場で抱える不妊症・不育症の支援にあたって抱えている課題について、グループ間でディスカッションを行い、具体的な支援プログラムを作成することを目的に2つのグループワークをオンラインによるライブ配信にて行なった。

1) グループワークの進め方

参加者全体をA/B/C/Dのグループラインに分け、ラインごとに、グループワークを行うグループメンバーを配置した。

グループワークは、ブレイクアウトルーム機能を活用し、1グループの人数が5名前後となるように振り分けた。また、本事業に協力いただいている都道府県助産師会から選出された助産師を各グループに1名記録係として配置した。

2) グループワークの内容

【グループワークの実際】

- ①自己紹介：氏名、職業、これまでの不妊症・不育症の支援の有無や内容、自らが抱える現場での課題、自治体における課題、不妊症・不育症に関する社会の認識などについて（15分）
- ②司会進行役の選出：グループ内で進行役を選出
- ③グループワーク1：支援にあたっての課題の抽出
 - ・不妊症・不育症の支援における課題について検討（30分）
- ④休憩（10分）
- ⑤グループワーク2：支援プログラムの作成
 - ・課題から考える支援プログラム作成テーマの抽出（10分）
 - ・支援プログラムの検討（25分）
- ⑥A/B/C/Dのグループラインごとに2～4のグループが作成した支援プログラム案について発表（15分）
- ⑦全体のまとめ（5分）

◆グループワーク 1：支援にあたっての課題抽出

1) グループワークの目的

医療従事者として不妊症・不育症の方々を支援していくにあたって、現在感じていることについて意見交換を行い、問題や課題を抽出することを目的とする。

現場で、本研修受講者自らが抱える課題、自治体の支援状況を踏まえた課題、さらに不妊症・不育症に関する社会での認識の状況について、それぞれの経験や立場からグループ内でディスカッションを行う。

2) 抽出された課題の主な内容（「5-3. 支援プログラム」p178 参照）

(1) 相談場所・窓口の不足

不妊症や不育症の治療や相談の現場では、患者への支援が重要であるとの認識は高いが、実際には、対応可能なマンパワーが不足していることにより相談窓口等の開設が難しい。また、相談場所を開設するための費用や時間などにも制限がある。例えば、患者や家族は日中働いており、実際に相談可能な時間帯（夜間や休日）には、相談場所を開設することが難しい。

(2) 不妊症・不育症に関する知識や認知度

個々の患者によっても、不妊症や不育症に関する知識の違いがあるが、それが、社会全体となるとさらに、正しく理解している人は限られる。まだまだ、社会においての不妊症・不育症に関する理解が十分とは言えない。

(3) グリーフケアの体制の整備

不妊治療が上手くいかない、流産・死産となった方々へのグリーフケアを行う体制が殆ど整っていない。

(4) 幼少期から成人期までの性教育

性に関する知識や適切な理解を幼少期から行っていく必要がある。また、対象となる児童や生徒だけでなく学校の教諭に対しての研修が求められる。

◆グループワーク2:具体的な支援プログラムの検討

1) グループワークの目的

グループワークの課題抽出のディスカッションから得られた不妊症・不育症に関する課題を共有し、今後求められる支援プログラムを作成することを目的とする。

2) 支援プログラム(「5-3. 支援プログラム」p178 参照)

支援プログラムは、様々な視点から検討され作成された。以下に提案された代表的な内容を集約し、例として示す。

A. 自治体と地域との連携事業

① 支援テーマ

当事者と支援者(医療者・会社・支援団体・行政・支援を求めている人など)をつなぐ

② 実施主体

自治体担当者とNPOなどの民間団体との共同実施

③ 対象者

当事者、支援したい人、病院職員、行政担当者、支援団体メンバーなど

④ 支援目的

相談できる場所を地域や社会に増やす

⑤ 概要

ア. 「ピアサポート」「不妊症・不育症月間」などのイベントを立案し、地域のイベントとコラボし開催
イ. 会社の労務担当向けプログラムを作成し、広く研修会等を開催

B.医療機関における相談体制整備

①支援テーマ

医療機関におけるカウンセリングのトレーニングを受けた職員の育成と配置義務化

②実施主体

行政・医療機関

③対象者

看護師、助産師、保健師など

④目的

対象者が必要とするときに、カウンセリングが受けられるための体制の構築

⑤概要

カウンセリングが行える医療従事者等の人材育成、職員の配置、体制整備のための助成制度を創設

C.多職種連携

①支援テーマ

不妊症や不育症の治療によって妊娠、出産した女性への切れ目のない支援

②実施主体

自治体

③対象者

行政の保健師、医療機関の医師、看護師・助産師、カウンセラーなど

④目的

不妊症や不育症の治療によって妊娠、出産した女性が安心して妊娠、出産、子育てが行えるよう切れ目のない支援体制の構築

⑤概要

地域において、定期的に関係者が集まり、情報共有、事例検討や勉強会などの企画、運営

D.企業における取組

①支援テーマ

企業における相談体制の整備

②実施主体

企業

③対象者

産業保健師、企業の人事、福利厚生等の担当者など

④目的

不妊症や不育症の患者が仕事と治療の両立ができ、社員が望むライフプランをサポート

⑤概要

ア.企業において、不妊症や不育症に関して理解を促す研修会の開催

イ.企業内での相談体制の構築

E.本事業受講者の活用

①支援テーマ

本事業受講者の活動の場の開拓

②実施主体

行政、医療機関、支援団体など

③対象者

本研修修了者

④目的

本研修で学んだことを生かし、地域において支援できる場を開拓

⑤概要

ア.所属機関において、今回の研修に関する伝達講習を実施

イ.所属機関において事例検討会や勉強会を開催

2-2-4. 受講者アンケート結果

1) オンデマンド講義プログラム

<講義テーマ>

1. 不妊症・不育症に関する医学的知識および一般的な治療の流れ
2. 不妊症・不育症への支援に係る制度
3. 不妊症・不育症患者特有の心理・社会的支援
4. 里親・養子縁組制度
5. グリーフケア

Q1. 講義の内容について、受講されての理解について教えてください。

テーマNo.	1	2	3	4	5
a.よく理解できた	1037	653	673	831	815
b.理解できた	696	978	896	714	676
c.どちらでもない	11	66	66	27	25
d.あまり理解できなかった	2	12	3	6	8
e.理解できなかった	5	1	4	2	0
合計	1751	1710	1642	1580	1524

- 凡例：
- a.よく理解できた
 - b.理解できた
 - c.どちらでもない
 - d.あまり理解できなかった
 - e.理解できなかった

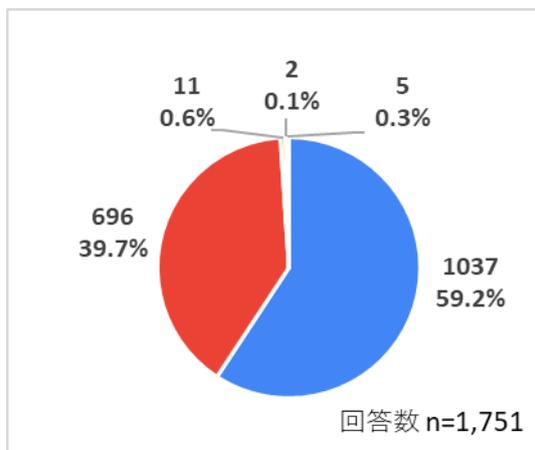


図 78. 講義別理解度：テーマ No.1

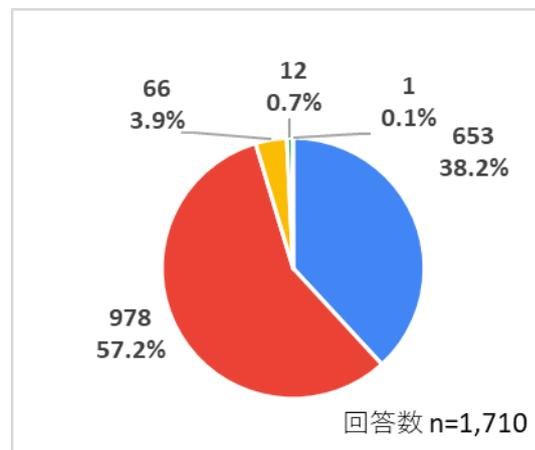


図 79. 講義別理解度：テーマ No.2

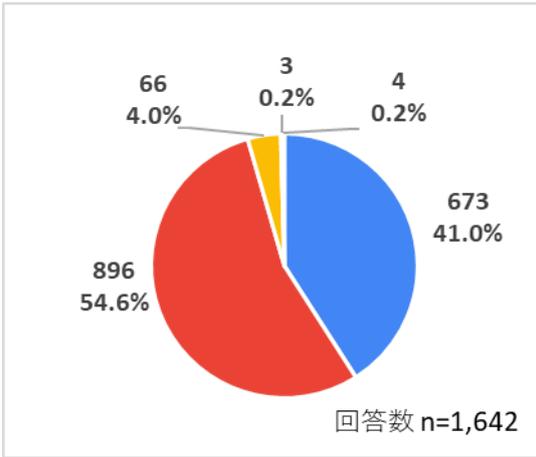


図 80. 講義別理解度：テーマ No. 3

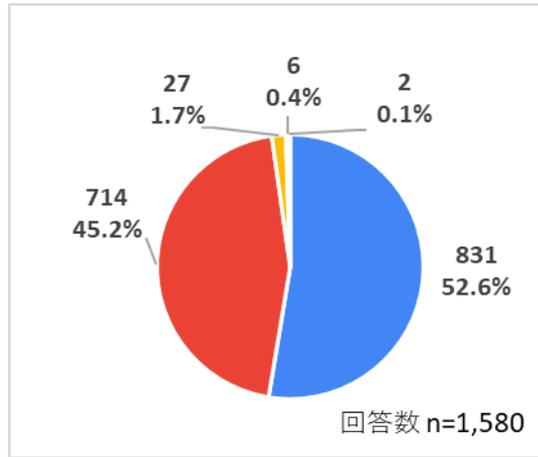


図 81. 講義別理解度：テーマ No. 4

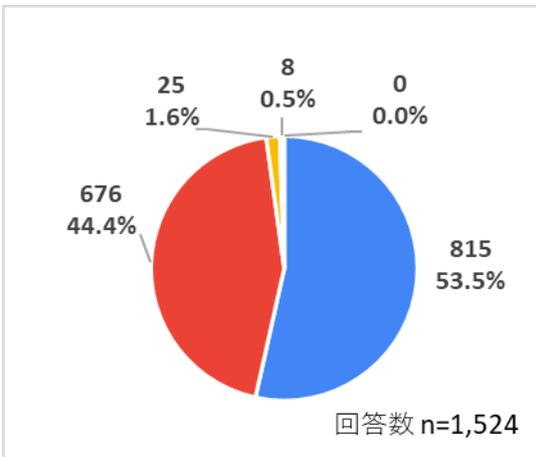


図 82. 講義別理解度：テーマ No. 5

Q2. 講義でとりあげた内容について、お考えを教えてください。(複数回答)

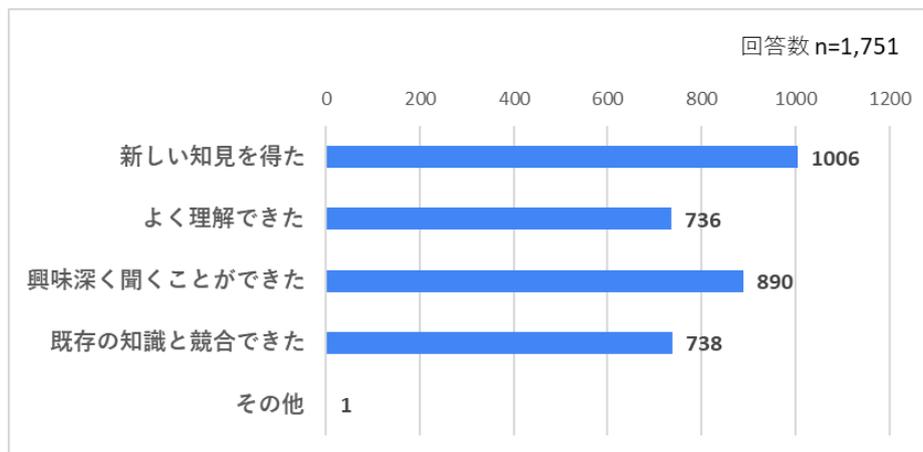


図 83. 講義内容についての考え：テーマ No. 1

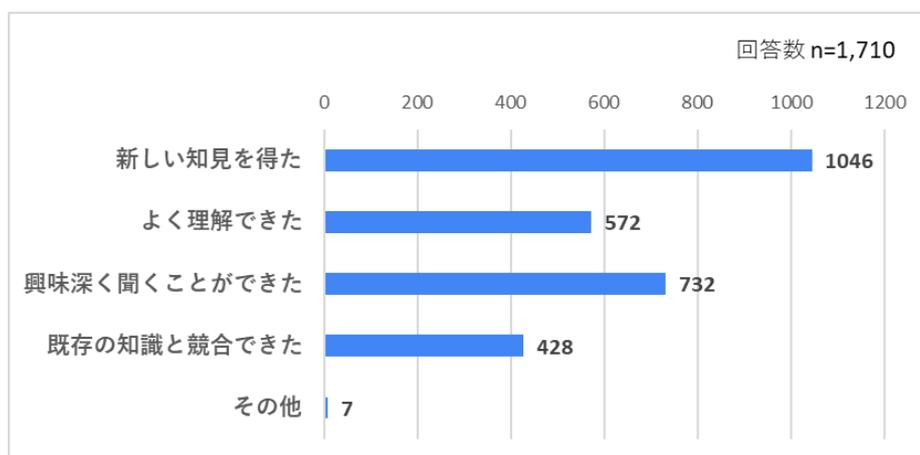


図 84. 講義内容についての考え：テーマ No. 2

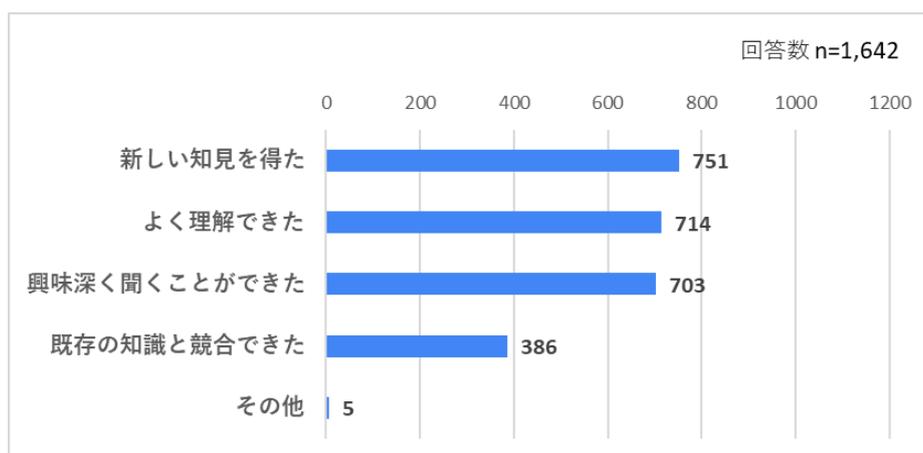


図 85. 講義内容についての考え：テーマ No. 3

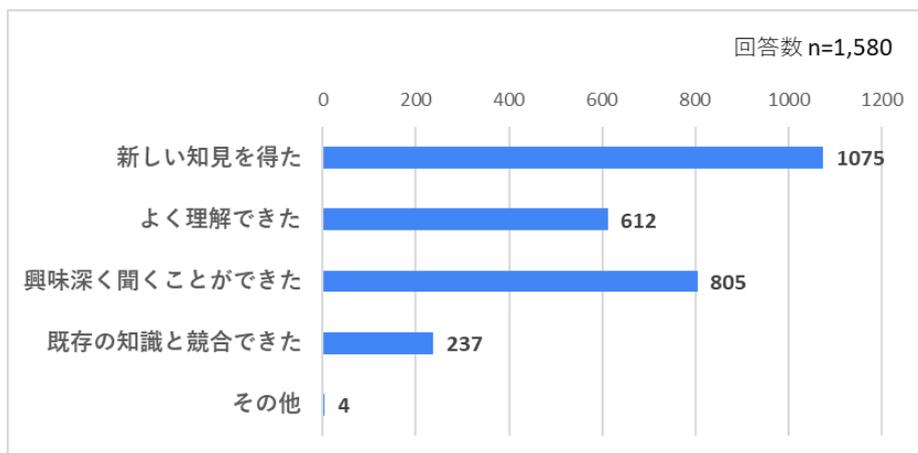


図 86. 講義内容についての考え：テーマ No.4

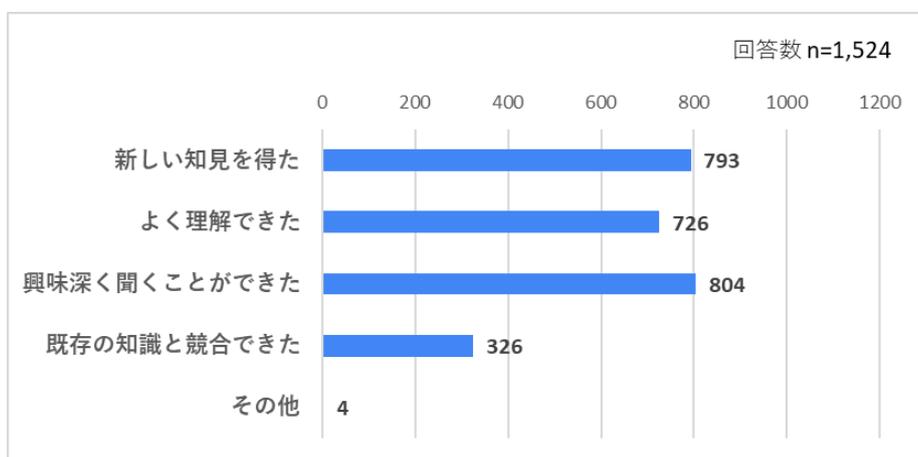


図 87. 講義内容についての考え：テーマ No.5

Q3. 講義でとりあげた内容について、今後のご自身の業務や活動に活かせると思いますか。

テーマNo.	1	2	3	4	5
思う	1200	975	863	839	998
やや思う	470	612	632	547	432
どちらでもない	63	107	127	153	76
やや思わない	12	10	15	32	13
思わない	6	6	5	9	5
合計	1751	1710	1642	1580	1524

- 凡例：
- 思う
 - やや思う
 - どちらでもない
 - やや思う思わない
 - 思わない

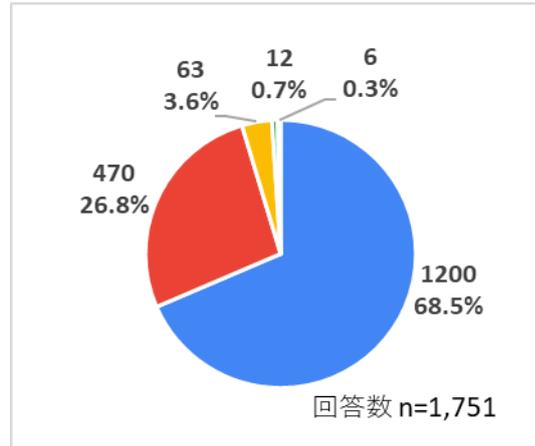


図 88. 今後の活動への活用：テーマ No. 1

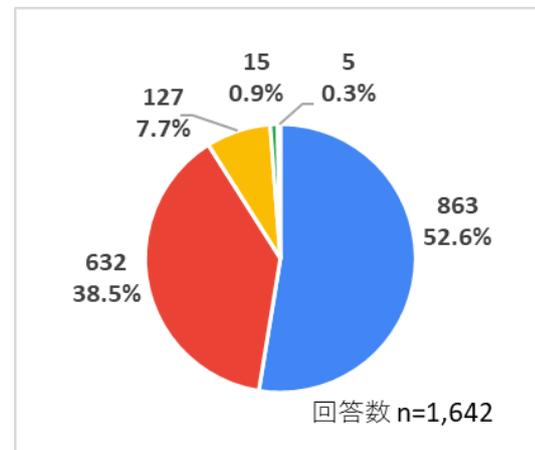
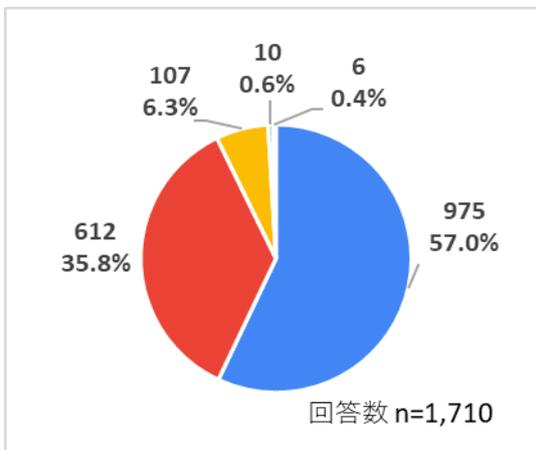


図 89. 今後の活動への活用：テーマ No. 2

図 90. 今後の活動への活用：テーマ No. 3

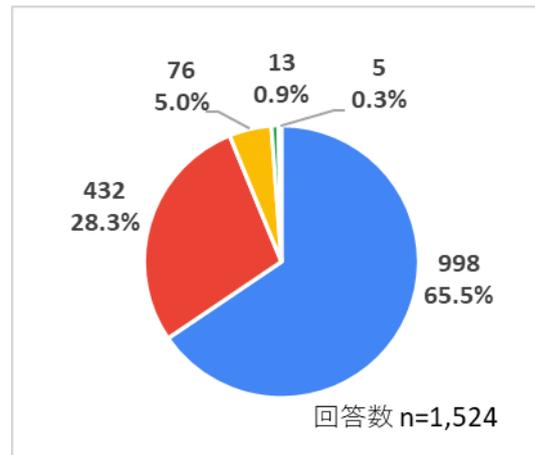
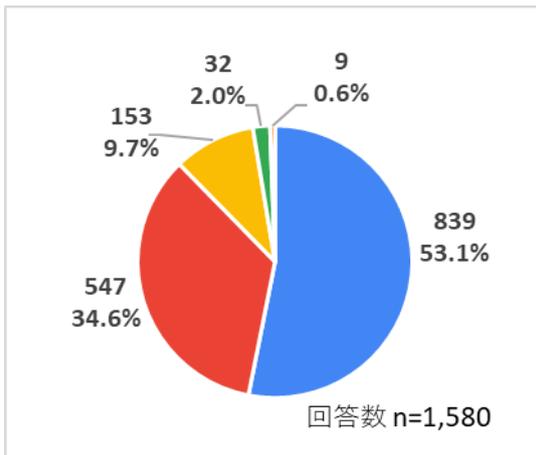


図 91. 今後の活動への活用：テーマ No. 4

図 92. 今後の活動への活用：テーマ No. 5

Q4. 研修方法(オンラインによる研修)についての満足度を教えてください。

テーマNo.	1	2	3	4	5
満足	1406	1230	1151	1249	1171
やや満足	311	424	425	295	312
どちらでもない	27	47	60	29	30
やや不満	5	7	5	4	8
不満	2	2	1	3	3
合計	1751	1710	1642	1580	1524

凡例：
■ 満足
■ やや満足
■ どちらでもない
■ やや不満
■ 不満

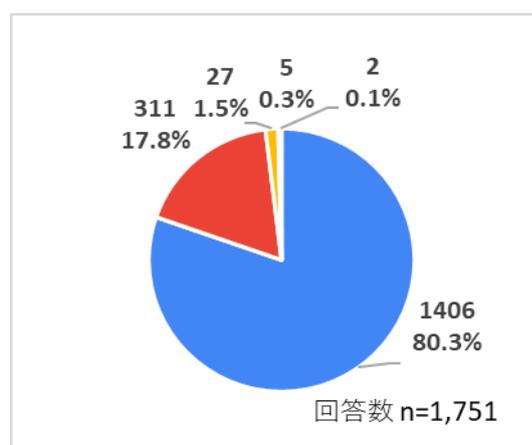


図 93. 研修方法への満足度：テーマ No. 1

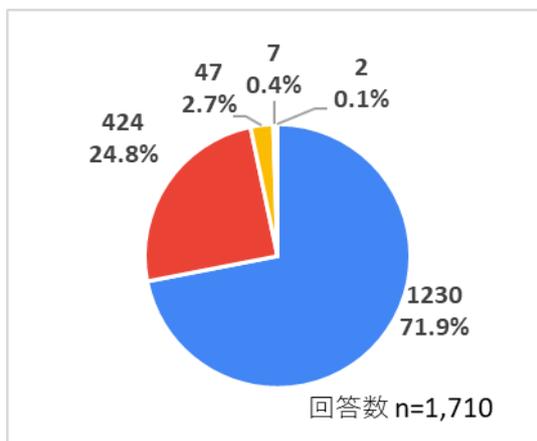


図 94. 研修方法への満足度：テーマ No. 2

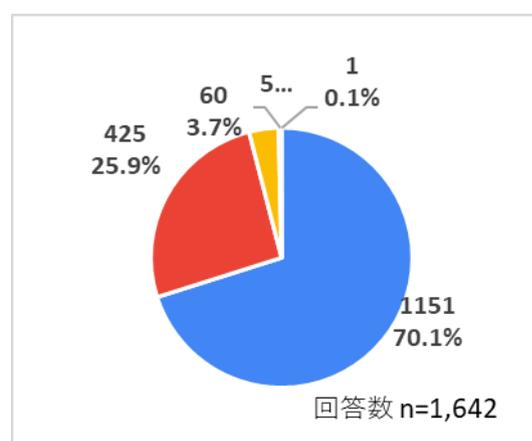


図 95. 研修方法への満足度：テーマ No. 3

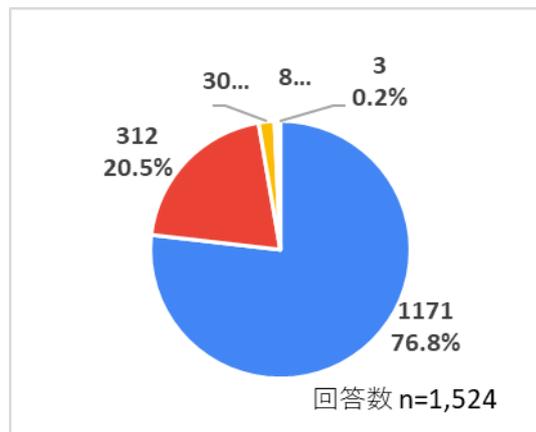
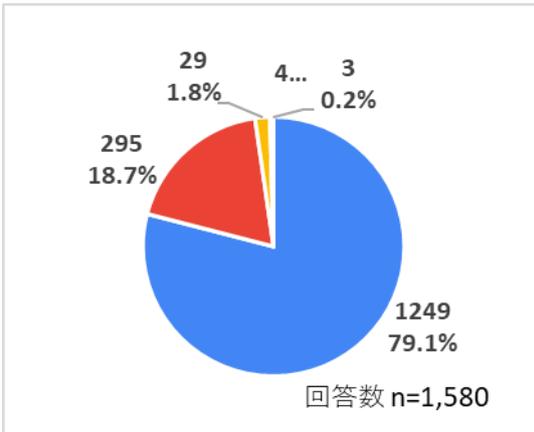


図 96. 研修方法への満足度：テーマ No.4

図 97. 研修方法への満足度：テーマ No.5

2) ライブ配信(グループワーク)プログラム

Q1. 講義の内容について、受講されての理解について教えてください。

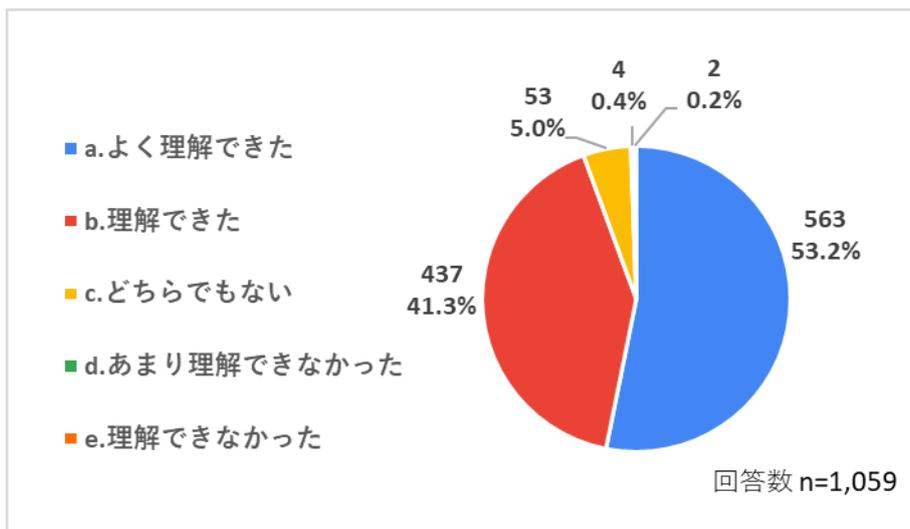


図 98. ライブ配信内容の理解度

Q2. 講義でとりあげた内容について、お考えを教えてください。

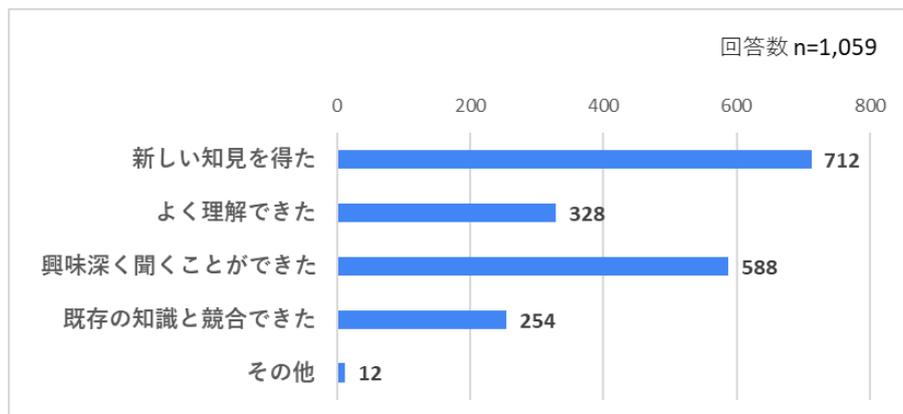


図 99. ライブ配信内容についての考え

Q3. 講義でとりあげた内容について、今後のご自身の業務や活動に活かせると思いますか。

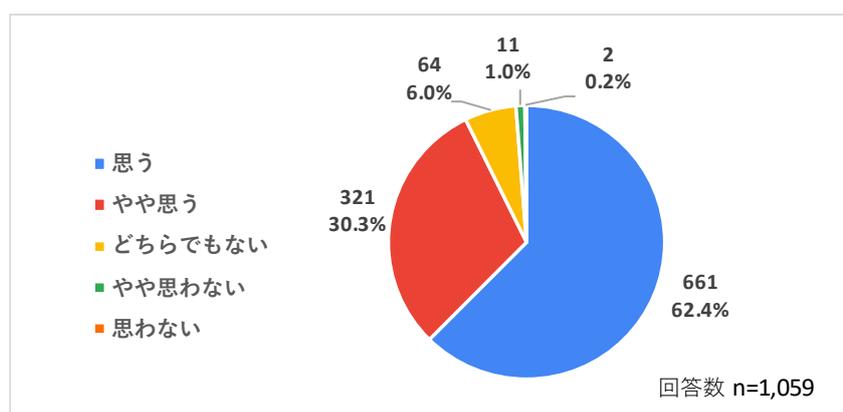


図 100. ライブ配信内容の今後の活動への活用

Q4. 研修方法 (オンラインによる研修) についての満足度を教えてください。

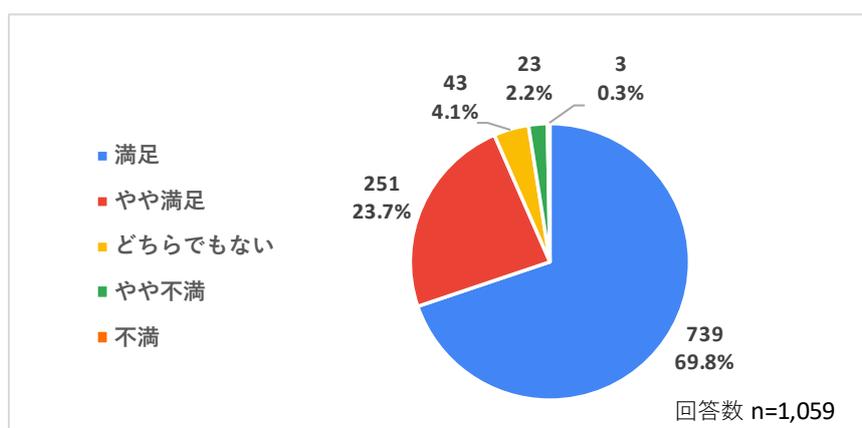


図 101. ライブ配信の研修方法についての満足度

1) 研修会の開催方法

本研修会は、昨年度に引き続き WEB 配信によって開催した。開催方法については、自分の都合の良い時間に動画を視聴できること、移動の必要がなく時間や旅費等の負担がないこと、何度でも繰り返し視聴できることなどから、どの講義についても 9 割以上の人々が満足としており良い評価を得ている。その一方で、傾聴スキルのグループワーク、支援プログラムの作成などは、タイムリーに質問ができないことから対面での講義を希望する意見もあった。

ライブ配信によるグループワークについても、概ね良い評価を得られた。その理由の一つとしては、各グループに配置したファシリテータの存在があった。参加者が増加すると、ファシリテータの数もそれにもなって必要数が増加するため、人員の確保については課題がある。また、オンラインの研修を初めて経験する方、アプリの使用法に不慣れな方、通信環境が不安定な方など、一部の受講生がオンタイムに参加できない状況もあり、事前の通信環境や参加方法についてのさらなる周知が必要である。

2) 研修内容(講義)

ピアサポーター向けの内容、医療従事者向けの内容ともに、すべてのテーマにおいて9割以上が良く理解できた、理解できたと回答しており、内容は妥当であったと考える。研修プログラムの構成や時間数については、ピアサポーター、医療従事者ともに 96%が適切であったと評価していた。全体の満足度については、満足とした人が 62%、やや満足とした人が 33.7%となっており受講生の満足は高いことが示された。

アンケートで内容についてあまり理解できなかったとの回答からは、内容が広範囲にわたっていたことや情報量が多いことが理由に挙げられており、限られた時間の中で、どの程度の情報を示すのかが今後の課題であると考ええる。

3) 研修内容(グループワーク)

グループワークについては、ピアサポーター、医療従事者ともに、内容に対する評価は高かった。また、時間については、時間が短いとした受講生もあり、ワークのための効果的な時間のあり方について、今一度検討の余地がある。また、グループによっては、支援プログラムの主旨から離れた方向で進んでしまったところもあり、司会進行役についての課題があると考ええる。

4) 今後の活動について

受講生の多くから、この研修を受けての今後の活動の場を求める声、また、都道府県においては、取り組みに差があるという声があり、支援を希望する受講生が活動できる場の検討が求められる。

1) 研修会の開催方法

(1) 開催方法

新型コロナウイルス感染症は WITH コロナの時代となり、対面での研修会の開催も検討可能かと思われるが、受講者からの意見は、オンラインでの開催の希望が多かった。対面での研修は時間や場所の制約があり、今回のような受講生3千人を超えるような研修会の開催は困難であり、多くの方が受講できるためには、引き続きライブ配信を含む、オンライン配信での研修開催が適当であると考えます。

(2) 研修会の周知・広報活動

受講生の募集にあたっては、ホームページ、チラシ、SNS などを活用しながら、関連団体への周知の協力をお願いし、多様な媒体を使用して周知、広報活動を行った。また、身近な人から研修について情報を得て参加したとする人も一定数を占めていたことから、今後も複数の方法により事業の周知を行うことが効果的であると考えます。

2) 研修内容について

(1) 研修単元と内容について

研修単元と内容は、概ね適当であった。今年度は、昨年度の課題から男性不妊に関することや支援の実際（民間団体や企業の取り組み）について、また、新しい制度や国の取り組みについての講義を入れたことから、より不妊症・不育症に関する理解が深まっていた。

今後も不妊症・不育症に関する社会の動きや具体的な支援の実際について当事者の方々の経験を交えながら情報提供をしていくことが望まれる。また、今後の研修においては、本研修を受講された方々のその後の活動などについても紹介する機会があるとよいと思われる。

(2) グループワークについて

昨年度からの提言により本研修においては、グループワークの最初に目的、目標を示したことで、受講生が共通理解をしたうえで、ワークに参加できたため、参加満足度が高く、これからの活動に生かしたいと考える人が多かった。今後も、グループワークにおいては、明確に目的、目標を示し、受講生が同じ目的、目標に向かってワークが行えるような工夫が必要である。

グループワークの進行にあたっては、ファシリテータが重要な役割となっており、欠かせない存在である。ピアサポーター向けには、各グループに1名のファシリテータを配置したが、医療従事者向けのグループワークでは記録係を配置したのみであった。医療従事者については、司会進行を受講生に担っていただく場合には、グループワーク開始前に司会進行の役割について明確に全体で共有しておくことが必要であると考えます。